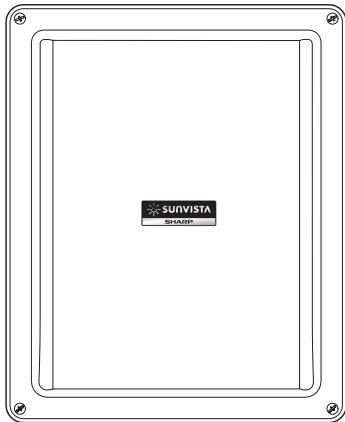


施工説明書 (お客様保管)

太陽光発電システム
パワーコンディショナ
形名 JH-55TP4
(5.5 kW タイプ)



- 施工説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。特に「安全上のご注意」(2~3ページ)は、施工前に必ずお読みください。
- 施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 施工時は、IDを保有する有資格者を工事現場に配置してください。当社では建設業（建設業法第26条第1項）に準じた制度構築とするため、施工店様に施工研修を受講いただき、次の施工IDを交付しております。
①モジュール設置施工ID
②電気工事施工ID
- この施工説明書は取扱説明書、保証書と共にお客様で保管していただくようにしてください。

もくじ

はじめに	安全上のご注意	2
	1. パワーコンディショナのシステム構成	4
工事	2. 製品の概要	8
	3. パワーコンディショナの設置場所	11
設定	4. パワーコンディショナの設置	15
	5. パワーコンディショナの配線	19
その他	6. 一括制御リモコンの設置・配線	26
	7. 配線後の確認	31
	8. 設定と試運転	32
	9. 引き渡し	41
	10. こんなときは	42



8A4C08000010

FJ1025-0

本説明書はこちらから
ダウンロードできます。



安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 **警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

 **注意** 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



気をつけていただく内容です。

!**警告**

感電、発煙、火災、けが、故障のおそれ



禁 止

■以下のような場所には設置しない

- 高温、多湿、ホコリの多い場所（納屋・屋根裏など）
- 換気・風通しの悪い場所（押入れ、トイレなど）
- 水・湯気や油煙にさらされる場所（浴室・キッチンなど）
- 下水、畜舎、温泉などで腐食性ガス（硫化水素など）の発生する場所
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所
- 不安定な場所、振動または衝撃を受ける場所
- 自動車、船舶などその他特殊な条件下

■壁面設置時に、固定ネジを壁中の金属製部材（ラス網等）に接触させない

漏電した場合に発熱し、火災のおそれがあります。（電技解釈 第145条3項）

■落下させた機器や変形した機器は使用しない

■指示のないカバーを外したり、分解、改造、取り外しをしない

■本体内部に雨水が入る状態や、施工場所や施工者が濡れた状態で施工しない

■水抜き穴を塞いだり、キャップを取り外したりしない

■自立運転コンセントは、湿気の多い場所に設置しない

■本体に取り付けた状態の配線カバーに、ホールソーや電動ドリルなどで穴を開けない



必ず守る

■「3-1. 設置場所の環境について」(11ページ)、「塩害地域への設置について」(12ページ)、「6-1. 一括制御リモコンの設置場所について」(26ページ)の設置条件を守る
火災・感電・故障のおそれがあります。

■製品の質量（取付板、保護ガードを含む：約22kg）に耐えられる場所に確実に施工する

■電気工事は、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」「労働安全衛生規則」など関連法令に従って法的有資格者が施工する

■配線作業が完了するまで、太陽電池モジュールに遮光シートをかぶせる

遮光シートをかぶせることができない場合は、日没後に配線作業を実施してください。

■トルク指定がある場合、トルクドライバーを使用して指定のトルク値で締め付ける

■パワーコンディショナ内の開閉器操作は素早く行う

■隠れ配線、露出配線にかかわらずシーリング材（变成シリコーン材）やシール用パテで配線口に隙間がないようシールする



アース線接続

■「内線規程」に従い、接地工事を確実に行う

感電や雷などによる機器故障、およびテレビやラジオに受信障害が発生するおそれがあります。（本書では、アースを接地として記載しています）

⚠ 注意

発煙、動作障害、けが、故障のおそれ



禁 止

- 一括制御リモコンをそのままの状態で屋外・屋側に設置しない
- 地中埋設配線する場合は、地中で接続はしない
- 一括制御リモコンをパワーコンディショナ内に放置しない
- 通信線は、電力線と並走させない
- 配線の系統・極性を間違えない



必ず守る

- 本体の上、下、左、右には、放熱に必要なスペースを確保する
- 地中埋設配線する場合や屋外にケーブルを施設する際は、電線管（PF管など）を使用する
- 取付板は、適切なネジで確実に固定する
- 配線は推奨電線種、電線サイズを使用する
- 電線は指定の加工、作業を行い、確実な接続を行う

1. パワーコンディショナのシステム構成

本製品は太陽電池モジュールからの発電電力を交流に変換し系統に電力供給する装置です。太陽電池モジュールは本製品の定格に合った仕様のものを選定し接続してください。

システムを構成する機器、部材については、個別の施工説明書も参照すると共に「電気設備に関する技術基準」「内線規程」に則り、選定し接続してください。

ご注意

- 商用電源の電圧を制御する機器とは併用は避けてください。
- 自立運転コンセントへ接続する負荷は医療機器、通信機器、防犯機器など人命や財産に影響のある機器は接続しないでください。

遠隔出力制御について

本製品は、2015年1月22日公布の電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法施行規則の一部を改正する省令と関連告示に対応した機器です。遠隔出力制御を行うためには、本製品と共に出力制御ユニット（電力計測制御ユニットなど）が必要です。

また、電力会社によっては、原則インターネット接続が必要です。なお、インターネット回線をご準備いただく場合は、インターネット回線契約・利用に伴う費用などはお客様のご負担となります。

遠隔出力制御の対応の為、出力制御ユニットのファームウェア（ソフトウェア）の更新や設置場所での作業（有償）が必要となる場合もあります。遠隔出力制御は、電力会社の要請により実施されますので、詳細については電力会社にご確認ください。

太陽電池の構成条件

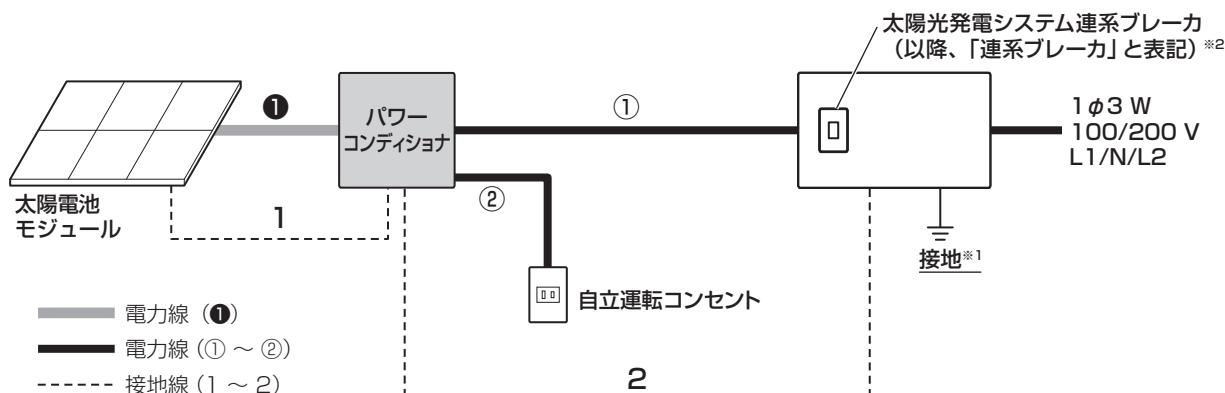
- 太陽電池の構成はいかなる条件（環境、太陽電池特性を含めて）において入力電圧は450V以下、1回路当たりの入力電流は右表の値としてください。入力電圧450Vを超えた場合は直流過電圧を検出し、パワーコンディショナは停止します。また、短絡電流を超えて入力された場合、故障の原因となります。
- ストリングコンバータと接続しないこと。

動作電流	短絡電流
15A以下	18A以下 ^{※1}

※ 1 太陽電池専用ケーブルのHCV 2 mm²を使用する場合、短絡電流は16A以下としてください。

1-1. 電力システム構成

システム構成



*1 接地は「電気設備に関する技術基準」や「内線規程」に従い、実施してください。

パワーコンディショナの使用電圧が300V超過のためC種接地が必要です。

ただし、当該電路に地絡が生じた場合に感度電流100mA以下、0.5秒以内に自動的に電路を遮断する装置を施設するときは、接地抵抗値500Ω以下と緩和可能ですが、この場合でもより安全性を高めるために接地抵抗値100Ω以下の接地工事をお勧めします。

また太陽電池モジュールの架台およびパワーコンディショナの接地は分電盤との1点（共用）接地を基本としますが、太陽電池モジュールとパワーコンディショナ間の配線長が長い場合に太陽電池モジュールの架台を個別接地にするなど、現場に応じて接地工事をおこなってください。

*2 連系ブレーカは「内線規程」に則って、選定してください。また連系ブレーカの定格電流は40Aでお願いします。

使用する電線（現地調達品）

ご注意

- パワーコンディショナに接続するケーブルや開口を塞ぐパテ・シーリング材には、赤リンゴやシロキサンなどの腐食性物質を含有するものについてはパワーコンディショナ内部部品の接点不良などを発生させる可能性があるため、使用しないでください。

■電力線

電力線	配電方式	推奨電線種（推奨最大電線長）
①	DC	太陽電池専用ケーブル*3 HCV 2 mm ² 、HCV 3.5 mm ² 、HCV 5.5 mm ²
①	1φ3W	CV 3心 8 mm ² (20 m) *4、CV 3心 14 mm ² (35 m) *4
②	1φ2W	CV 2心 2.0 mm ² (10 m) *5、CV 2心 3.5 mm ² (20 m) *5、 CV 2心 5.5 mm ² (30 m) *5

■接地線

接地線	推奨電線種
1	IV 1心 φ1.6～5.5 mm ² *6
2	

*3 太陽電池モジュールとパワーコンディショナ間の配線は電圧降下による発電損失をご確認の上、設定してください。

また、HCV 2 mm²を使用する際は、太陽電池の構成条件（4ページ）もご参照ください。

*4 パワーコンディショナと連系ブレーカの配線の電線径および電線長は「内線規程」に基づき設定してください。また系統電圧と電圧上昇抑制値とのマージンに対して、電圧降下値が極力小さくなるようにしてください。

（上表の最大推奨電線長は、最大容量5.5kW時の電圧降下値1.5Vでの計算値から設定しています）

*5 パワーコンディショナと自立運転コンセント間の配線は1例であり、「内線規程」に基づき設定してください。

*6 接地線について、5.5 mm²より細い径のものを使用する場合、圧着端子は現地調達してください。

1-2. 通信、外部制御システム構成

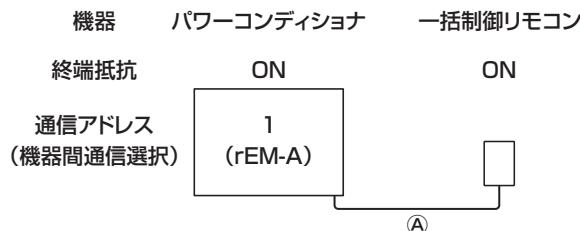
ご注意

- パワーコンディショナおよび一括制御リモコンには、インターネット接続機能は無いため、遠隔出力制御をする場合は、電力計測制御ユニット（別売品）などの外部機器を接続する必要があります。
- 一括制御リモコンや外部機器を接続する場合は機器間通信選択、通信アドレス、終端抵抗の設定を確実に行ってください。
- 外部機器の接続に関しては本書の他、外部機器の説明書を確認してください。

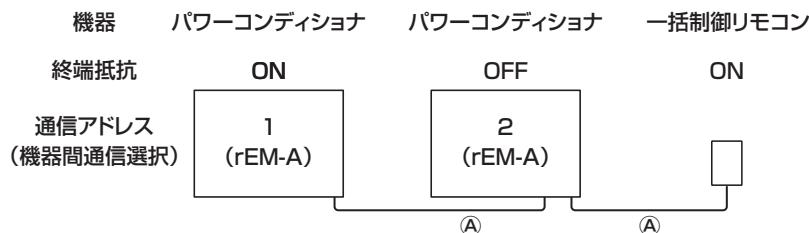
一括制御リモコン、外部機器接続システム構成

■ 一括制御リモコン接続システム

- パワーコンディショナが1台の場合



- パワーコンディショナが複数台の場合



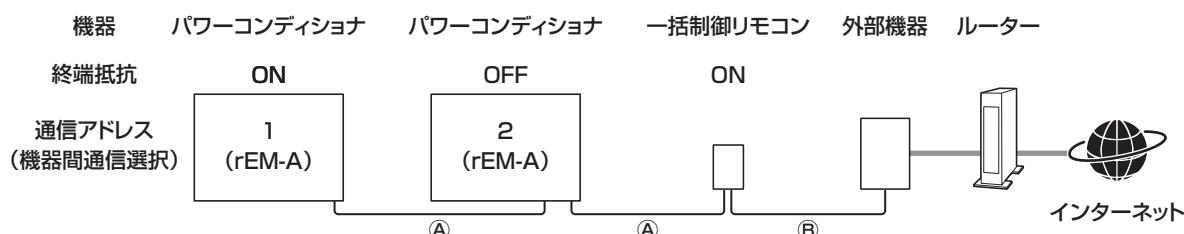
※ 一括制御リモコンのパワーコンディショナ接続可能台数：最大 12 台

※ パワーコンディショナの複数台の渡り配線は、一括制御リモコンをパワーコンディショナの間に接続しないでください。

■ 外部機器接続システム

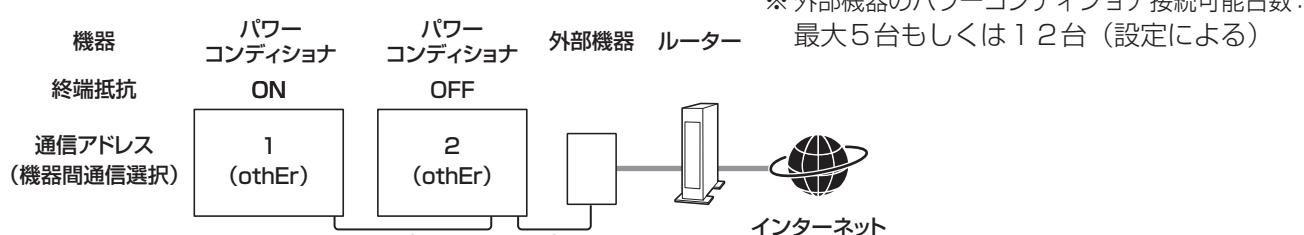
外部機器対応：電力計測制御ユニット JH-ASPO2

- 一括制御リモコンありの場合



※ 一括制御リモコンをパワーコンディショナと外部機器の間としてください。

- 一括制御リモコンなしの場合



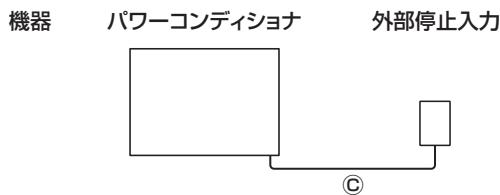
※ 外部機器のパワーコンディショナ接続可能台数：
最大5台もしくは12台（設定による）

※ 外部機器の説明書により接続可能台数をご確認ください。また、パワーコンディショナの複数台の渡り配線は、外部機器をパワーコンディショナの間に接続しないでください。

※ パワーコンディショナ1台の場合はパワーコンディショナの終端抵抗はONにしてください。

外部停止入力使用時のシステム構成

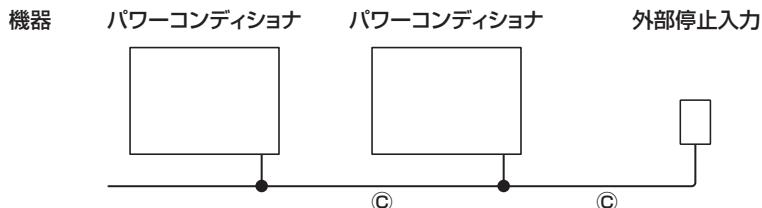
- パワーコンディショナが1台の場合



対応可能な外部入力接点

- ・無電圧 a／b 接点（設定による）
 - ・印加電圧 12 V、電流 10 mA／1 台

- パワーコンディショナが複数台の場合



※ 外部停止入力の渡り配線がある場合はパワーコンディショナの端子で渡ることはできないため、中継端子で分岐し接続してください。渡り配線方法は「外部停止入力への配線について」(24 ページ) をご参照ください。

使用する電線（現地調達品）

■ 通信線

通信線	通信方式	推奨電線種（推奨最大電線長）
Ⓐ	パワコン通信	FCPEV 2P ϕ 0.9 (30 m ^{*1})
Ⓑ	RS-485	FCPEV 2P ϕ 0.9 (30 m ^{*1})
Ⓒ	接点入力	FCPEV 1P ϕ 0.9、ツイストペア線 AWG22～16 (参考:約 0.3～1.25mm ²) (800 m)

※ 1 通信線Ⓐ、Ⓑの総配線長は 800 mまで可能です。ただし、配線長が長い場合、ノイズなどの影響により通信できない場合があります。

1-3. 電線以外の施工準備部材（現地調達品）

現地調達品	備考
PF 管およびコネクタまたは、配線ダクト (耐候性および防水性タイプ)	耐候性および防水性のあるものをご使用ください。 直射日光があたる部分に関しては、PFD 管をご使用ください。
自立運転コンセント	お客様からのご要望により設置してください。 (自立運転コンセントは、パワーコンディショナ本体にありません)
シール用パテ	難燃・不乾タイプのパテをご使用ください。
シーリング材	变成シリコーン（低分子シロキサン低減タイプ）をご使用ください。 シロキサンガス発生による電子部品の接点不良を防ぐためです。

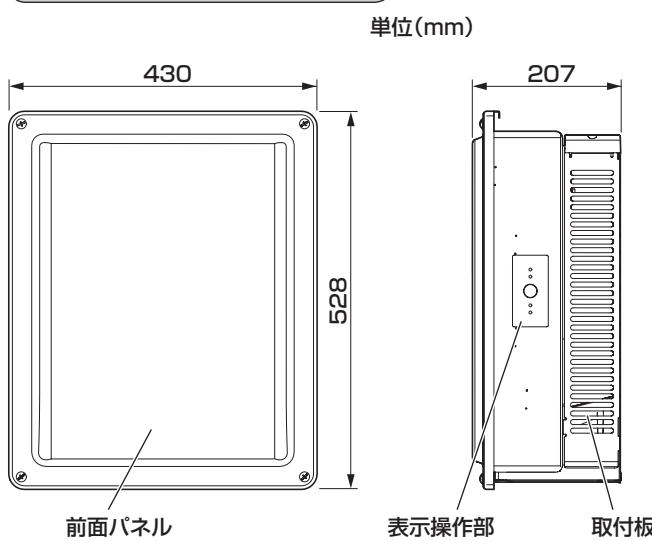
2. 製品の概要

ご注意

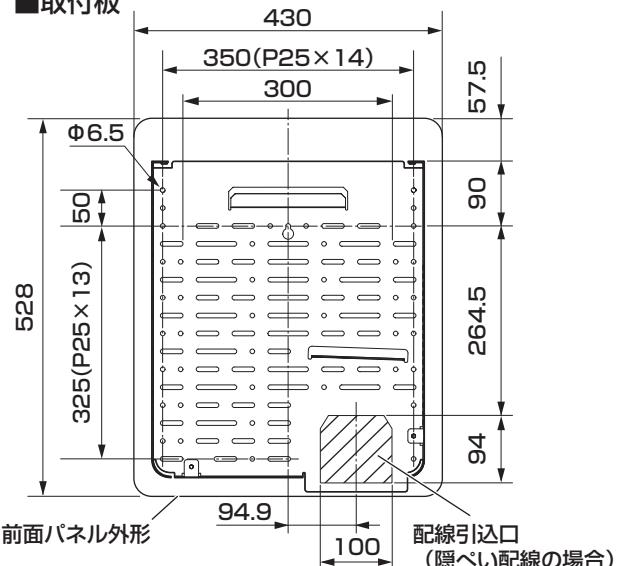
- 本機の外観にキズ、へこみなどの異常が無いことをご確認ください。
 - 付属品がそろっているかご確認ください。

2-1. パワーコンディショナの外形と各部の名称

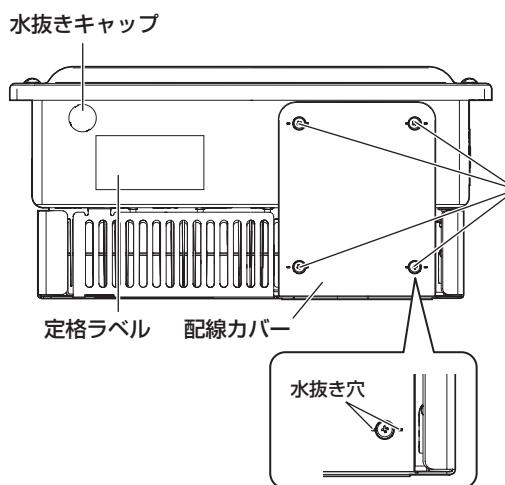
パワーコンディショナ



■取付板



底面



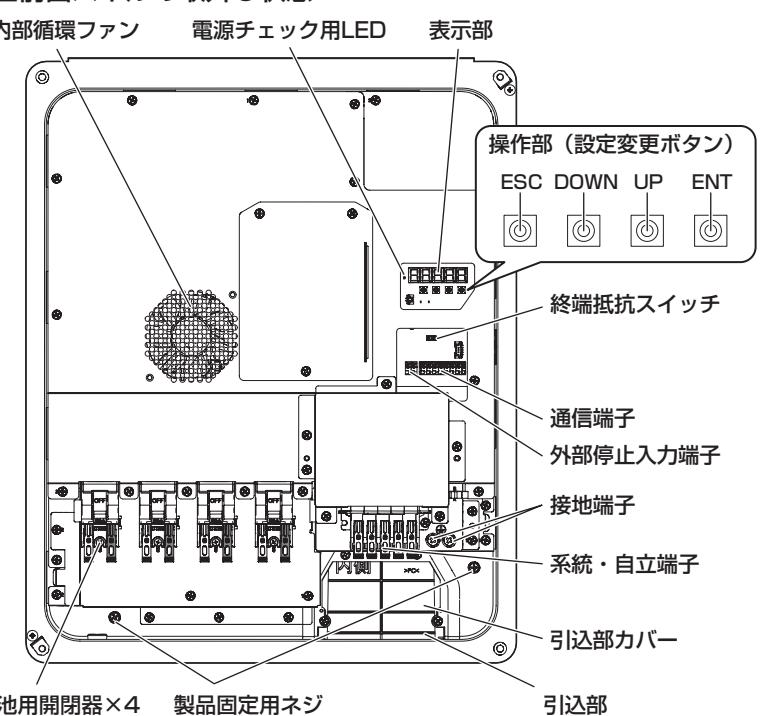
The diagram illustrates the rear panel assembly of a device. It shows a central rectangular frame with several components attached. Labels in Japanese point to specific parts:

- 前面パネル固定ネジ (Front Panel Mounting Screw) - Points to the screw at the bottom left.
- カバー (Cover) - Points to the top cover.
- 保護ガード (Guard Protection) - Points to the metal mesh at the top right.
- 前面パネル (Front Panel) - Points to the front panel.
- 表示操作部 (Display Operation Panel) - Points to the vertical panel on the right with a display and buttons.
- 取付板 (Mounting Plate) - Points to the base plate at the bottom right.

ご注意

- 水抜きキャップを取り外したり、配線カバーの水抜き穴を塞いだりしないでください。

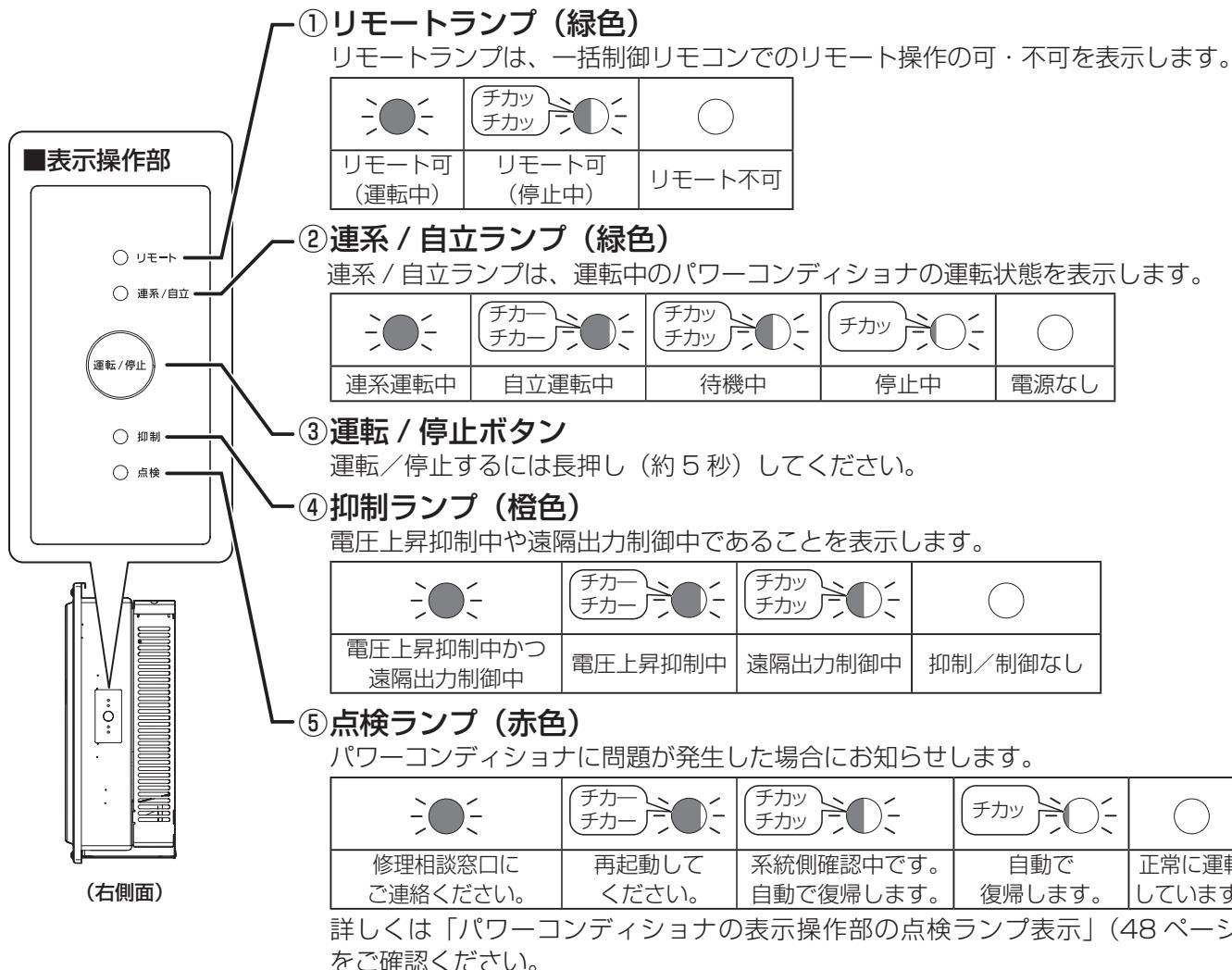
■前面パネルの取り外し状態



2-2. パワーコンディショナの表示操作部

表示操作部の各ランプによりパワーコンディショナの運転状況を確認することができます。
表示は下記の5パターンがあります。(ランプ表示はイメージです)

		約2秒点灯と 点滅 繰り返します。		約1秒ごとに 点滅 繰り返します。		短く点灯と 点滅 繰り返します。	
--	--	----------------------	--	----------------------	--	---------------------	--



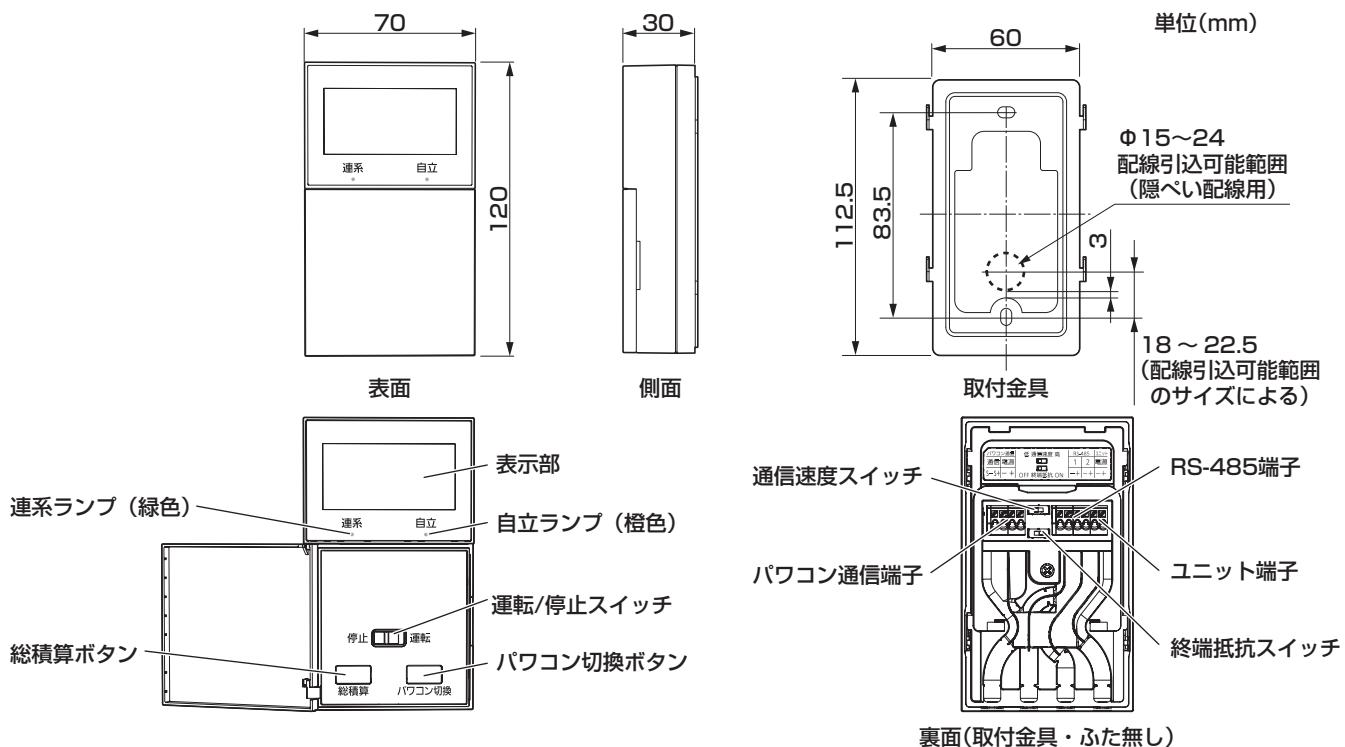
2-3. パワーコンディショナの付属品

品名	形状	個数	品名	個数
取付板		1	工事用型紙	1
			検査成績書	1
			自立運転コンセントラベル※1	1
保護ガード		1	施工説明書(本書)	1
			取扱説明書(保証書付き)	1
取付板固定ネジ 5.5 × 80		8	※ 1 自立運転コンセントを設置する場合は自立運転コンセントまたはその近くの見やすい位置に付属の「自立運転コンセントラベル」を貼ってください。	
保護ガード固定ネジ M4 × 10		2		
製品固定用ネジ M5 × 10		2		
接地線用圧着端子 R5.5-5		1		
絶縁チューブ TCM-53		1		

2-4. 一括制御リモコン（別売品）の外形と各部の名称と付属品

■ JH-RPL3

パワーコンディショナ接続可能数：最大 12 台



一括制御リモコン用木ネジ 3.8 × 16 2本付属

3. パワーコンディショナの設置場所

3-1. 設置場所の環境について

「安全上のご注意」(2ページ) の警告表示欄に記載の設置禁止場所に加え、次のような場所への設置はしない

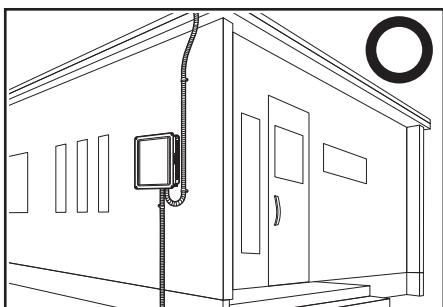
1. 設置温度範囲(-20 °C ~ +50 °C)、湿度(95% RH以下)の範囲外の場所、日中に直射日光の当たる場所
2. 水上および常時水を浴びる場所、建物の屋側壁面から離れるなどして風雨の影響を著しく受ける場所、冠水のおそれのある場所、水はけの悪い場所
3. 本製品の条件に当てはまらない塩害地域^{*1}
4. 爆発性／可燃性ガス容器や引火物の近くや、それらのガスが漏れるおそれのある場所
5. 過度の塩分や腐食性物質（硫化水素、亜硫酸、亜硝酸、塩素、アンモニア、臭素、など）、化学薬品にさらされるおそれのある場所
6. 热風や水・油の蒸気にさらされる場所
7. 煙・じんあい・砂ボコリの多い場所
8. 不安定な場所、振動または衝撃を受ける（ボールや落雪などが当たる）おそれのある場所（野球場・サッカーフィールドなど）
9. 温度変化の激しく、著しく湿度の高い場所
10. 換気・風通しの悪い場所や夏場温度が著しく上昇する場所、「パワーコンディショナに必要なスペース」(14ページ) を確保できない場所
11. 積雪地域（本製品が雪に埋もれるおそれや、落雪の衝撃を受けるおそれのある場所）
12. 標高 2,000 m を超える場所
13. 上下逆さまや横倒しや横向きの取付けが必要な場所
14. 人の往来の妨げになる場所
15. 点検、メンテナンスができない場所（足場やはしごなど高所作業が必要となる場所、お客様の点検、屋根裏などの隠れて点検やお手入れができる場所も含む）
※修理時に足場やはしごなどが必要になる際は、その費用は有償となる場合があります。
16. 高周波ノイズを発生する機器のある場所
17. 壁の変色や排熱・機器特性上の電磁音が気になる場所
18. 騒音について厳しい制約を受ける場所（寝室の壁への設置は避けること）
19. テレビやラジオなどのアンテナ、アンテナ線より 3 m 以上間隔をとれない場所
20. 電気的雑音の影響を受けると困る電気製品の近く
21. PLC、LAN など通信を利用する機器の近く
22. アマチュア無線のアンテナが近隣にある場所
近隣にアマチュア無線のアンテナがあるところに太陽光発電システムを設置すると、太陽光発電システムの機器や配線から発生する電気的雑音（ノイズ）を感度の高いアマチュア無線機が受信することで通信の障害となる場合がありますので設置はお控えください。
23. その他特殊な条件下（自動車・船舶など）
(感電、火災、故障、電磁波雑音の原因になります)

※ 1 塩害地域に設置する場合は、「塩害地域への設置について」(12ページ) を参照してください。海岸からの距離にかかわらず、周囲の状況により潮風の影響があると思われる場合は、塩害地域とみなしてください。

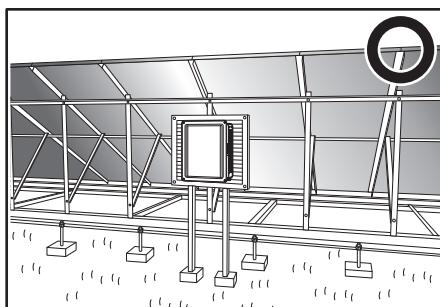
3-1. 設置場所の環境について（つづき）

良い設置場所の例

- 日中に直射日光の当たらない場所に設置してください。

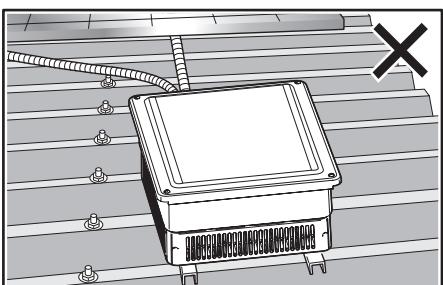


屋側に設置(日中に直射日光があたらず、上方のスペースを確保した場所)

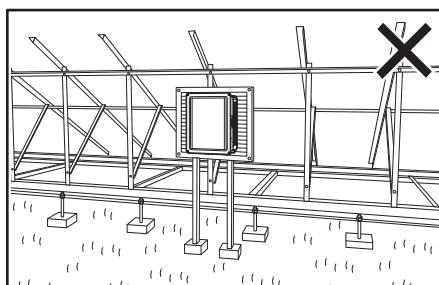


太陽電池モジュールの下で、日光を遮り風雨の影響を著しく受けない場所に設置

悪い設置場所の例



平置きで設置



太陽電池モジュールが無い状態の野立て設置

塩害地域への設置について

塩害地域に設置する場合は、下表を参照してください。

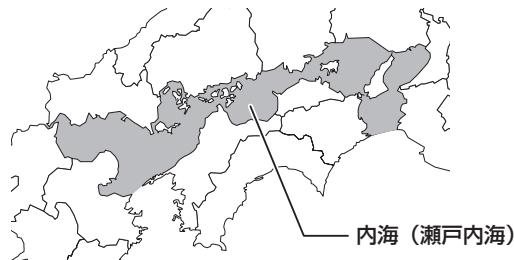
海岸・河口 ^{※2} からの距離、区分											
～300 m 以内			300 m 超～500 m 以内			500 m 超～1 km 以内			1 km 超～		
沖縄・離島	外洋	内海	沖縄・離島	外洋	内海	沖縄・離島	外洋	内海	沖縄・離島	外洋	内海
×	×	△	×	△	○	△	○	○	△	○	○

○：潮風が当たる場所でも設置可能、△：潮風が当たる場所は設置不可、×：設置不可

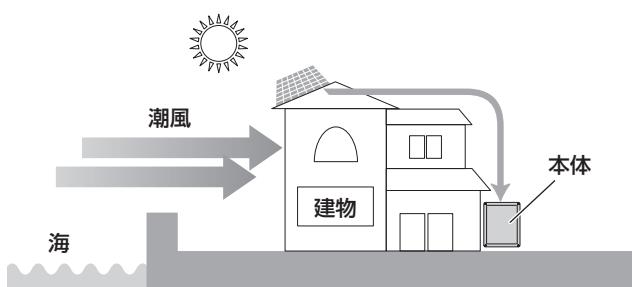
※2 河口は塩分の遡上があるため海岸と同等で判断してください。

■内海（瀬戸内海）の定義

瀬戸内海は領海法の定義に準拠します。下図参照。



■直接潮風が当たらない場所への設置例



■塩害地域への設置の注意事項

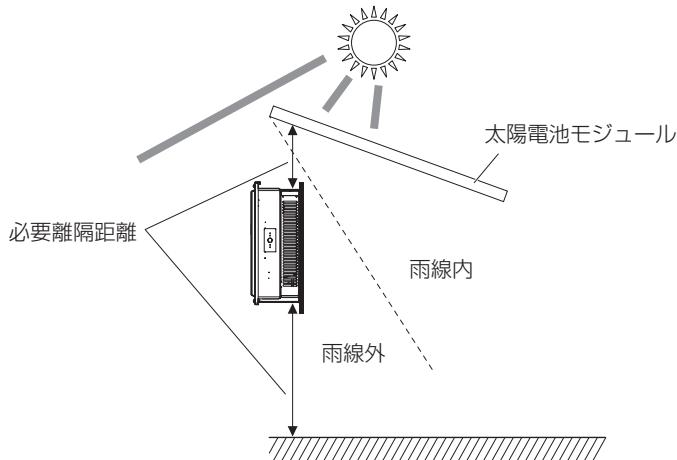
- 海水飛沫の掛かる場所へは設置できません。
- 潮風に直接さらされる場所への設置は上表で可能な場合でも極力避けてください。
- 製品に付着した海塩粒子が雨水により洗い流される場所に設置してください。
- 据付、メンテナンス等で付いた傷は必要に応じて補修や交換してください。

太陽電池モジュール架台下への設置について

直射日光が当たらないように設置してください。

また、塩害地域に設置する場合はさらに雨水により洗い流せる場所（雨線外）に設置してください。
その他、離隔距離などの条件は下記「3-2. 設置場所の条件について」をご参照ください。

■ 塩害地域への設置例



屋内設置について

パワーコンディショナを屋内設置する場合は、下記に注意して設置してください。

- 離隔距離（パワーコンディショナに必要なスペース⇒14ページ）を事前に確認すること。
- 長くご使用いただくと、パワーコンディショナ周辺部の壁の色が変色する可能性があります。お客様と十分にご相談の上、設置場所の選定をお願いします。
- 脱衣所暖房や衣類乾燥機等の熱風が当たる場所には設置しないこと。
- パワーコンディショナの運転音や動作音が問題となる場所には設置しないこと。
- テレビ・ラジオなどと近接して設置するとノイズの影響を受けやすいので、アンテナ線より3m以上離して設置すること。
- 屋外機用デザインのため、屋内設置の場合はお客様とご相談の上、圧迫感が気にならないような場所に設置すること。
- 太陽電池からパワーコンディショナまでの配線を敷設できることを確認してから、パワーコンディショナを設置すること。
- 屋外設置の場合と同様、小動物や水が入ることを防止するパテ埋めをすること（19ページ）
- 開閉器（JH-AK02）を屋外に設置することを推奨します。万一の事故（自然災害）の際、太陽電池モジュール出力線（DC）が付近にあると識別できるようにするために、および住宅が施錠されても屋外から太陽電池入力をOFF（切）にできるようにするためにです。

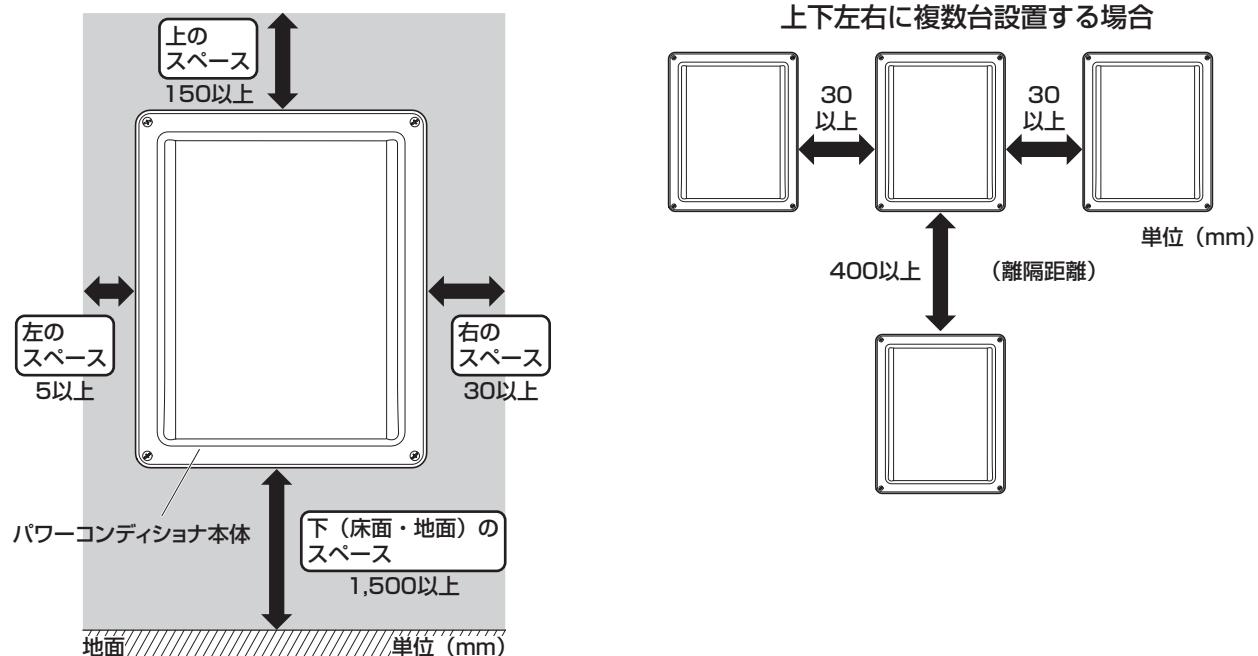
※屋内とは、居住空間を意味します。ガレージなどは屋外となります。

3-2. 設置場所の条件について

ご注意

- 製品の取り付けはネジ固定となります。ネジの固定強度の弱い場所や製品質量（約 22 kg）に耐えられない場所には設置しないでください。
- 製品には配線作業が必要です。配線引込みや配線の経路を確保できない場所には設置しないでください。

パワーコンディショナに必要なスペース



- 床面・地面などとの取り付け高さは、必ず 1,500 mm 以上を確保してください。ただし、人が近づけないようフェンス／柵で囲った場合は 500 mm 以上で設置可能です（メンテナンスをできるようにしてください）。
- 作業スペースのため、パワーコンディショナ本体前面の手前に 800 mm 以上の空間を確保することを推奨します。手前の空間の確保が難しい場所への設置は、あらかじめ施工可能であることをご確認のうえ、設置してください。
- 表示操作部の視認や操作ができるよう、最適な離隔距離を確保してください。
- C形鋼などを使用し、パワーコンディショナを背面合わせで設置する場合、パワーコンディショナ間の離隔距離は 120 mm 以上確保してください。

ご注意

- 上下設置は最大2台までです。また各製品の間隔は本書記載の距離を最低限とし、極力あけて設置してください。
- 設置環境や離隔距離を含む周辺のスペースにより出力抑制制御が働きやすくなる場合があります。

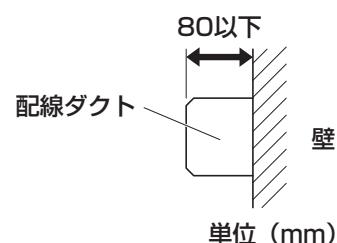
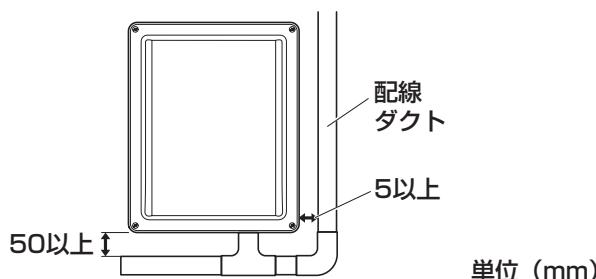
配線ダクトや露出配管を使用する場合の必要スペース

■ 配線ダクトの場合

製品と配線ダクトとの離隔距離は下記のスペースをあけてください。

- パワーコンディショナ下側と配線ダクトの離隔距離が 50 mm 以上
- パワーコンディショナ側面と配線ダクトの離隔距離が 5 mm 以上

※ 配線ダクトは耐熱性が高く、かつ壁から突出した高さ寸法が 80 mm 以下のものを使用してください。



■ 露出配管の場合

PF 管の曲げ半径は内径の 6d (d:PF 管内径) 以上必要ですので、これを満たしたスペースを確保してください。また、製品と PF 管との離隔距離は配線ダクトと同一の条件を満たしてください。

4. パワーコンディショナの設置

4-1. パワーコンディショナの取付板の固定

ご注意

- 製品の取り付けはネジ固定となります。ネジの固定強度の弱い場所や製品質量（約 22 kg）に耐えられない場所には取り付けないでください。もしくは製品質量に耐える補強を実施してください。

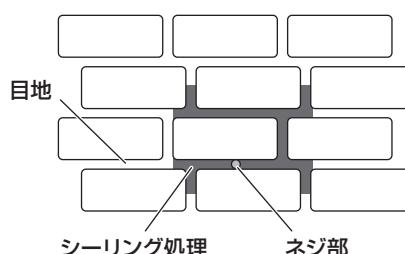
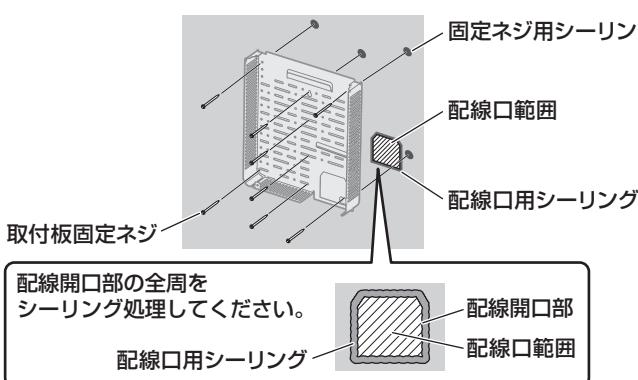
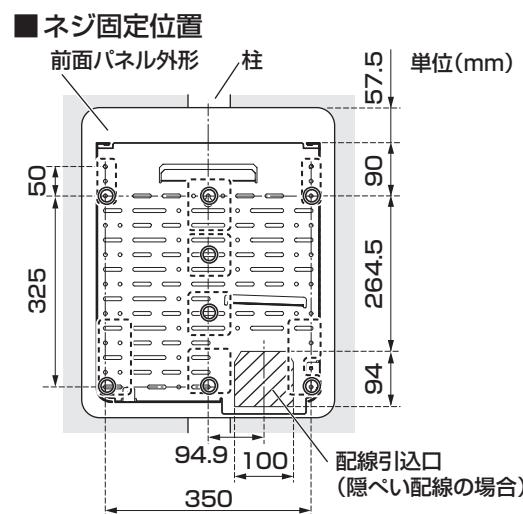
取付板の外壁への固定

ご注意

- 付属品の取付板固定ネジが壁材に適していない場合は壁の材質、構造に応じて適切なネジを現地調達して、適正な本数で固定してください。
- 隠ぺい配線の場合は壁内の配線が取付板固定ネジと接触しないようにしてください。
- 壁のネジ穴部、配線引入口の周辺部には水の浸入を防止するため必ずシーリング材でシール処理をしてください。

1. 固定場所の設定および固定前の処置

- ①パワーコンディショナの設置位置、ネジ固定箇所および配線引入口を設定
 - 設置場所、固定位置の設定には必要に応じて付属品の工事用型紙をご使用ください。
 - ネジ固定箇所と配線引入口は右図により設定してください。
※ 隠ぺい配線で先行配線する場合は、製品の設置・固定条件を守り、引き込み場所を設定してください。
 - ※ タイル壁などタイルの破損の可能性がある場合は、ネジ固定箇所がタイル目地になるようにしてください。
 - ※ コンクリート壁の場合は鉄筋を回避するなど注意してください。
- ②壁への配線穴加工（隠ぺい配線の場合）
 - 配線穴加工はあらかじめ設定した位置に右図の範囲で実施してください。
- ③壁へのネジの下穴加工（ネジの下穴が必要な場合）
 - ネジの下穴が必要な壁材（モルタル、タイル壁や軽量鉄骨造など）の場合には設定した位置に適正穴径で下穴処理を行ってください。
- ④配線穴周囲とネジ固定箇所へのシール処置
 - 配線穴周囲とネジ固定箇所へのシーリング材によるシール方法は下図を参考に確実に実施してください。
※ シールは取付板を固定した後でも隙間が発生しないように確実に実施してください。
※ ネジ固定箇所のシールは下穴がない場合にも実施してください。



2. 取付板の固定

①壁への取付板の固定

- 固定場所の位置に取付板を当て、必要箇所に必要本数の取付板固定ネジで固定してください。
※ 取付板固定ネジの締付けは壁材に適したトルクで実施してください。
※ 取付板の垂直、水平を確認し、必要に応じて調整してください。

②取付板の固定状態の確認

- 取付板はがたつきがなく確実に固定されているか確認してください。また取付板と壁材の間のシールも隙間の発生がないか確認してください。確認した結果、問題があれば修正してください。

4-1. パワーコンディショナの取付板の固定（つづき）

取付板の屋内壁への固定

ご注意

- 壁の材質、構造に応じて適切なネジを現地調達して、適正な本数で固定してください。
- 隠ぺい配線の場合は壁内の配線が固定ネジと接触しないようにしてください。
- 取付板と壁材との間に隙間がある場合は製品内部に虫や小動物などが侵入する可能性があるためシーリング材、パテなどで確実にシールしてください。

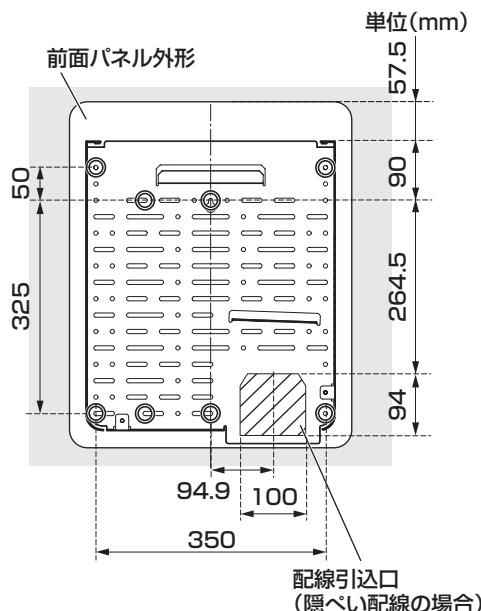
1. 固定場所の設定および固定前の処置

- ①パワーコンディショナの設置位置、ネジ固定箇所および配線引入口を設定
 - ネジ固定箇所と配線引入口は右図により設定してください。
※ 隠ぺい配線で先行配線する場合は、製品の設置・固定条件を守り、引き込み場所を設定してください。
 - ※ コンクリート壁の場合は鉄筋を回避するなど注意してください。
- ②壁への配線穴加工（隠ぺい配線の場合）
 - 配線穴加工はあらかじめ設定した位置に右図の範囲で実施してください。
- ③壁へのネジの下穴加工（ネジの下穴が必要な場合）
 - ネジの下穴が必要な壁材の場合には設定した位置に適正穴径で下穴処理を行ってください。
- ④配線穴周囲へのシール処置（取付板と壁材の間に隙間がある場合）
 - シーリング材などによるシールは「取付板の外壁への固定」（15ページ）を参照して同一範囲で実施してください。

2. 取付板の固定

「取付板の外壁への固定」（15ページ）を参照して、同様の方法で取付板を固定してください。

■ ネジ固定箇所



記号の意味

- ◎：固定箇所

取付板の太陽電池モジュール架台下への固定

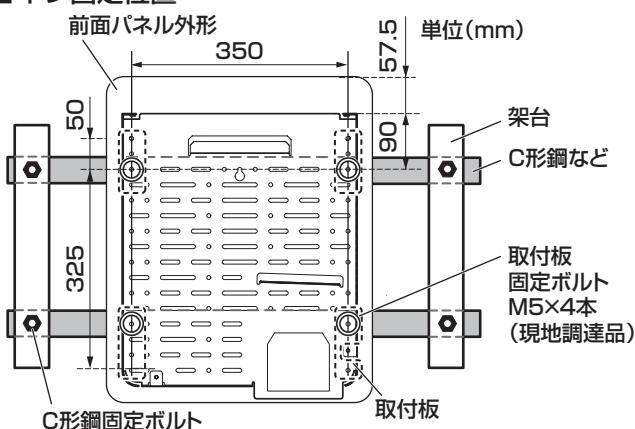
ご注意

- 固定する鋼材は十分強度があり、耐食性のある材料を使用し、強度を確保した構造で組立てしてください。
- 固定する鋼材の材質、構造に応じて適切なネジを現地調達して、適正な本数で固定してください。
- 製品の引込部にある引込カバーは必ず取り付けた状態にしてください。

1. 固定場所の設定および固定前の処置

- ①パワーコンディショナの設置位置、ネジ固定箇所を設定
 - ネジ固定箇所は右図により設定してください。
- ②架台への固定部の処置
 - 製品の取り付け場所として、ネジ位置に合わせてC形鋼や溝形鋼などの組立てを行ってください。
※ 取付場所となる鋼材の組立てはパワーコンディショナの垂直、水平レベルが確実に出せるようにしてください。
 - 取付場所となる鋼材に固定ボルトのネジ径（M5）に最適な大きさで下穴を開けてください。下穴箇所は防錆処置を行なってください。

■ ネジ固定位置



記号の意味

- ◎：固定箇所

- ：固定位置調整可能な範囲

※ ネジの間隔が狭くならないようバランスよく設定してください。

2. 取付板の固定

「取付板の外壁への固定」（15ページ）を参照して、同様の方法で取付板を固定してください。

4-2. パワーコンディショナの取付け

ご注意

- 製品の取り扱いにはご注意ください。製品が破損・変形したら使用しないでください。
- 製品の取付けの際には2人作業で行うなど安全に配慮し、また製品には傷がつかないようにご注意ください。
- 製品の取付けは背面の引っ掛け部を取付板に確実に引っ掛けて、また各固定用のネジは確実に締め付けてください。

1. 前面パネルの取外し

前面パネル固定ネジ（4か所）を外して、前面パネルを上側に持ち上げながら取り外してください。

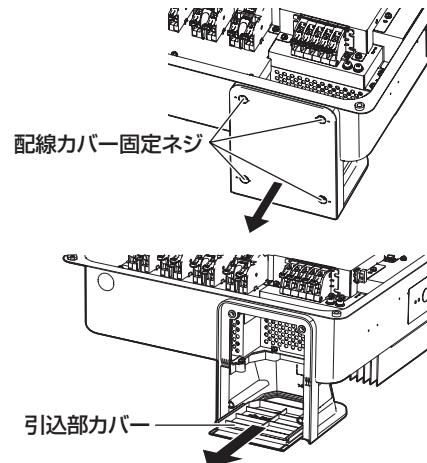
ご注意

- 取り外した前面パネルは傷がつかないように仮置きしてください。



2. 配線カバーと引込部カバーの取外し

配線カバー固定ネジ（4か所）を外して、配線カバーを取り外してください。



引込部カバーを引抜き方向に引張り取り外してください。

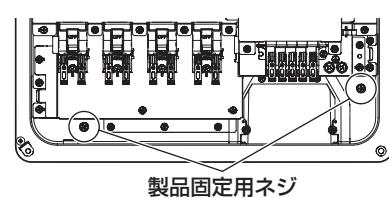
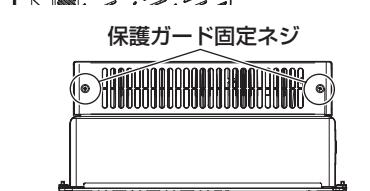
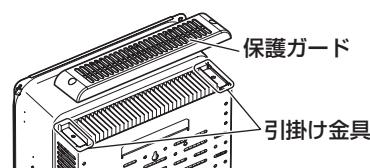
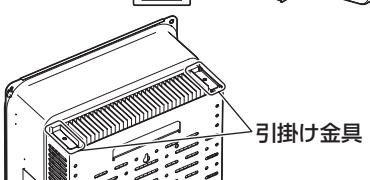
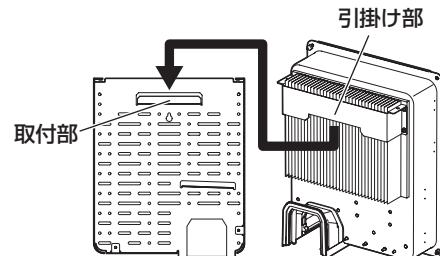
ご注意

- 隠ぺい配線（先行配線）以外の場合は本作業を製品取付後や配線引込時に行なうことも可能です。最適な作業段階で実施してください。

3. 取付板へのパワコン本体の引掛け

設置場所に固定された取付板の引掛け部にパワーコンディショナの引掛け金具を引掛けてください。

また、その際パワーコンディショナの引掛け金具の固定面と取付板の固定面が合わさっていることを確認してください。



4. 保護ガードの取付け

保護ガードを引掛け金具の固定面に乗せ、保護ガード固定ネジ（2か所）で締め付けてください。

（締付トルク：1.2 N・m～1.4 N・m）

5. パワーコンディショナの固定

パワーコンディショナ下部の固定位置に製品固定用ネジ（2か所）で締め付けてください。

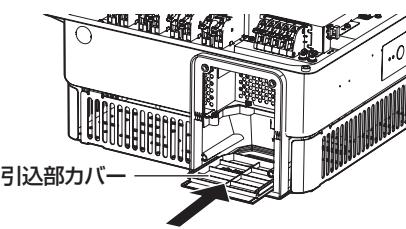
（締付トルク：2.0 N・m～2.5 N・m）

4-2. パワーコンディショナの取付け（つづき）

6. 引込部カバーの取付け（隠ぺい配線以外の場合）

引込部カバーを図のようにカバーの突起部を「カチッ」と音がなるまで製品に取り付けてください。

※正しく取り付けられた状態では自重で落ちないため、落ちないか確認してください。



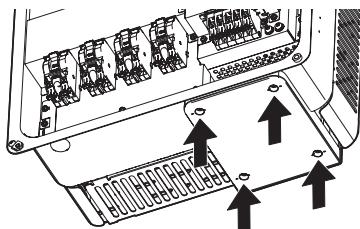
ご注意

- 隠ぺい配線以外の場合は引込部カバーを図の方法で必ず取り付けてください。また引込部カバーを取り外さなかったとしても正しく取り付いているか確認をしてください。

7. 配線カバーの取付け

配線カバーを図のように製品に当て、取り外した配線カバー固定ネジで4か所を締め付けてください。

(締付トルク : 1.2 N・m ~ 1.4 N・m)



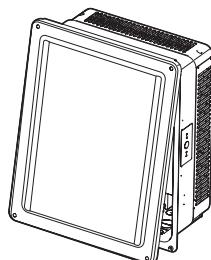
ご注意

- 配線カバーの取付けは確実に固定してください。
- 本作業は配線引込みや配線後などの後の作業で行うことも可能です。最適な作業段階で実施してください。
ただし、製品取付後から後作業までに期間が空く場合は本作業を実施してください。

8. 前面パネルの取付け

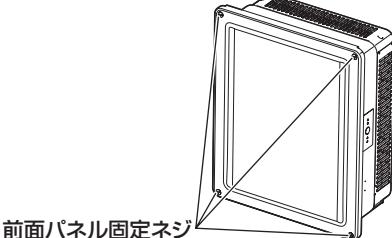
パワーコンディショナ上部に前面パネルを引掛けて取り付け、前面パネル固定ネジ穴（4か所）で締め付けてください。

(締付トルク : 2.7 N・m ~ 3.0 N・m)



ご注意

- 前面パネルを取り付ける前にパワーコンディショナ本体、各部品にガタツキなどの問題がないか確認してください。
- 前面パネルは裏面のパッキンに傷を付けないように注意してください。
- 本作業は配線や設定後などの後の作業で行うことも可能です。最適な作業段階で実施してください。ただし、製品取付後から後作業までに期間が空く場合は本作業を実施してください。
- 配線後に前面パネルを取り付ける場合は配線挟み込みがないように注意してください。



前面パネル固定ネジ

5. パワーコンディショナの配線

ご注意

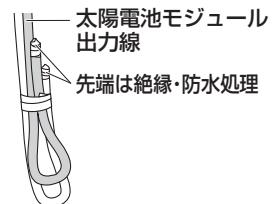
- 先行配線など製品取付前に配線状態で期間が空く場合は、壁内や電線に水が入らないようにしてください。
- 太陽電池モジュール出力線については電圧が発生するため、絶縁などの処置も実施してください。

太陽電池モジュール出力線の処理について

太陽電池の設置後、開閉器への接続までに時間要する場合は、雨水や露、湯気などによる短絡を防ぐため、太陽電池モジュールからの各出力線の先端部分が重ならないよう右図のように確実に絶縁および防水処理を行ってください。

(特に子供の手の届かない高さで処理してください)

太陽電池モジュールからの+正極と-負極の出力線が短絡すると電流が流れ続け大変危険です。(日射がある限り直流電流が流れ続けます)



5-1. パワーコンディショナの配線引込み

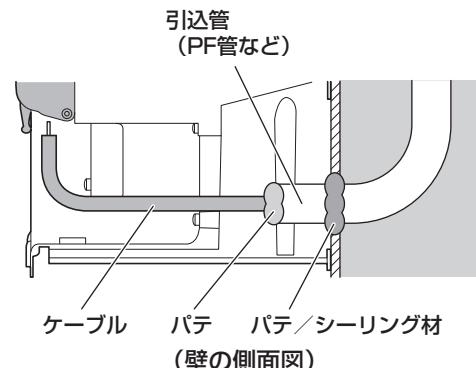
配線引込方法	備考
隠ぺい配線	
露出配線	PF管接続 配線ダクト接続

隠ぺい配線方法

- 配線カバーは「4-2. パワーコンディショナの取付け」(17ページ)に基づき取り外し、引込みおよび配線後に取り付けてください。
- ケーブルを引込管から引き込み、そのケーブルを配線処理で必要な長さにしてください。
- 引込後に引込管とケーブル、引込管と壁との間にパテやシーリング材で隙間なくシールしてください。

ご注意

- 引込部では電力線と通信線が接触しないように注意してください。
- 製品取付前にシールしている場合は製品取付後にシールの状態を確認し、隙間がある箇所を再度処理してください。



5-1. パワーコンディショナの配線引込み（つづき）

露出配線方法

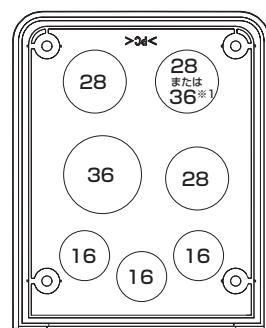
■ PF 管接続の場合

- 配線カバーへの穴開け箇所を参考に引込箇所を決め、引込箇所に PF 管コネクタ固定用穴を適正な大きさに開けてください。
- ※ 配線カバーを取り外して行う場合は「4-2. パワーコンディショナの取付け」(17 ページ) を参照して配線カバーの取外し、取付けを行ってください。その穴に PF 管コネクタを取り付け、PF 管コネクタに PF 管を接続してください。
- ※ 呼び 16(下穴φ27)、呼び 28(下穴φ34)、呼び 36(下穴φ43)
- ケーブルを PF 管から製品側に引き込み、そのケーブルを配線処理に必要な長さにしてください。
- ※ ケーブルを製品側へ引込困難な場合は配線カバーを取り外し、ケーブルを引き込んだ後に配線カバーを取付けすることも可能です。
- 引込後に PF 管とケーブルとの間にパテで隙間なくシールしてください。

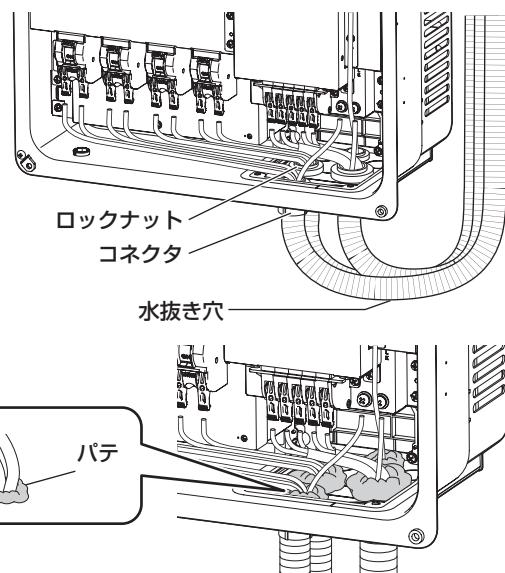
ご注意

- 同一 PF 管内に電力線と通信線を混在させないでください。
また引込部では電力線と通信線が接触しないように注意してください。
- 配線カバーの水抜き穴はパテで埋まらないようにしてください。
また PF 管の最下部には水抜き穴を設けてください。

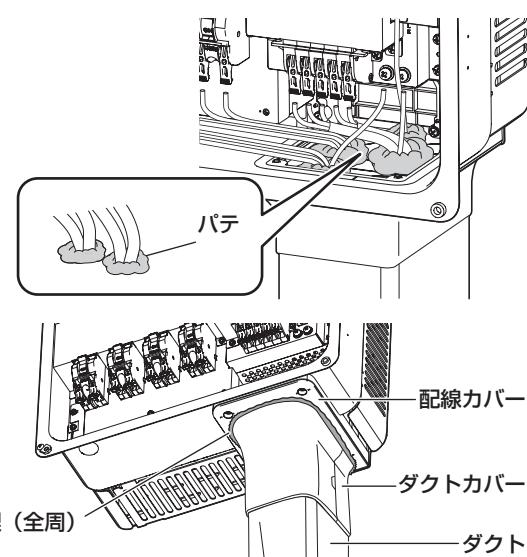
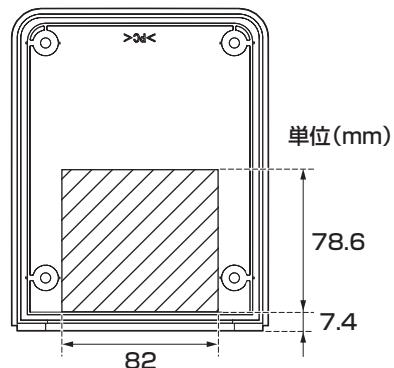
配線カバーへの穴開け箇所 (PF 管呼びで表記)



*1 太陽電池専用
ケーブルが
5.5 mm² の
場合は、呼び 36
(下穴 43 mm)
の穴を開けて
ください。



配線カバーへの最大穴開け範囲

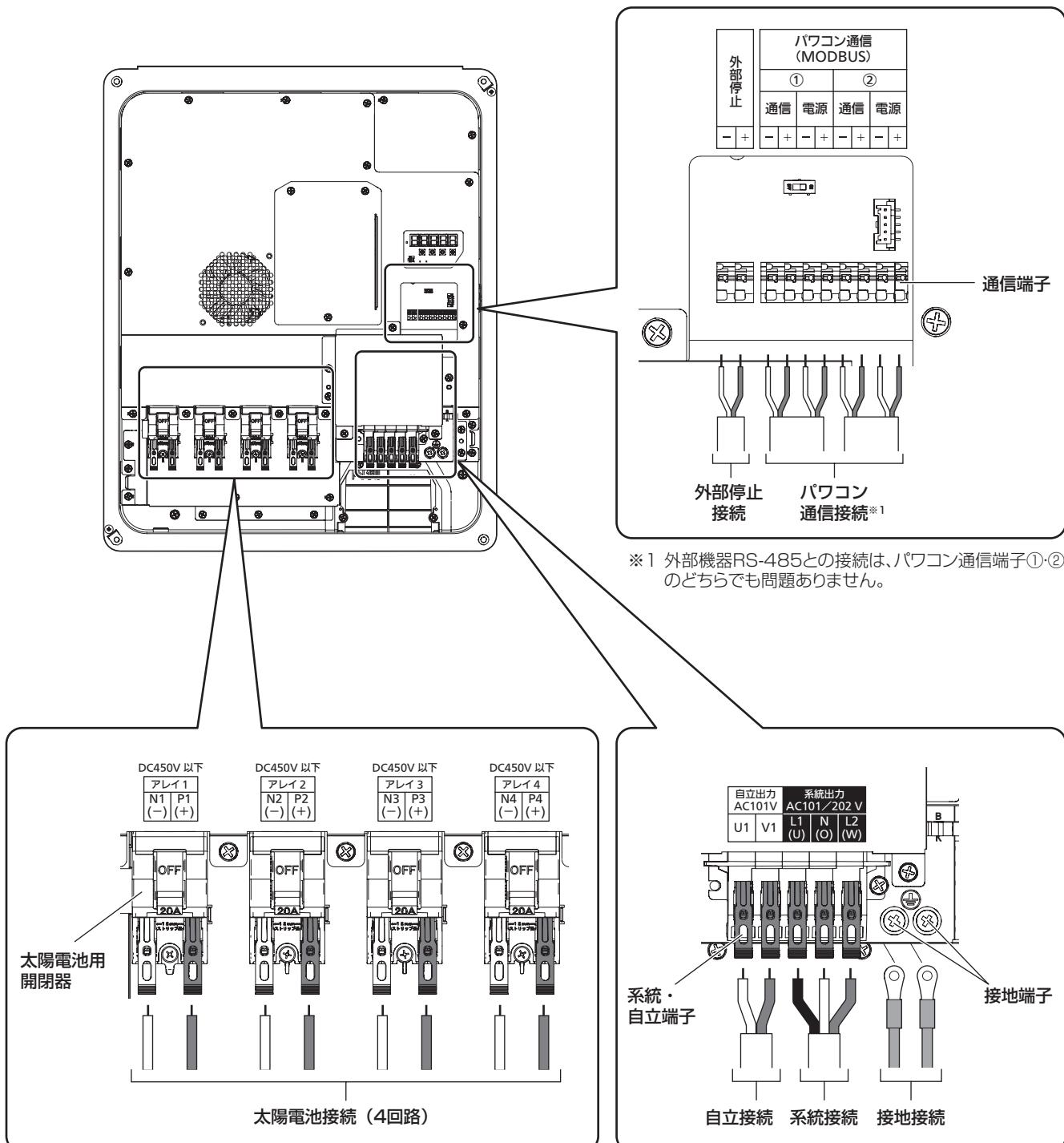


5-2. パワーコンディショナの配線接続

ご注意

- 接続作業時には配線に電圧がないことを確認し作業を行ってください。(配線作業は、連系ブレーカ、パワーコンディショナ内の全ての開閉器が OFF(切)になっていることを確認し、太陽電池モジュールに遮光シートをかぶせて、もしくは日没後に行ってください)
- 配線作業は静電気による製品の損傷を防ぐために除電してから行ってください。
- 極性間違いや間違った端子への誤結線がないように確認し、接続してください。
- 端子への接続は指示された内容で確実に実施してください。

配線用端子の確認と接続先



5-2. パワーコンディショナの配線接続（つづき）

太陽電池用開閉器、系統・自立端子への接続

太陽電池用開閉器、系統・自立端子は同じ速結端子です。指定電線を下記方法で確実に接続してください。

ご注意

- 太陽電池モジュールからの出力線を+極と-極で短絡すると電流が流れ続け感電・火災につながる可能性があるため、短絡しないようにご注意ください。
- 端子への電線の接続不良があった場合、火災につながる可能性があるため確実に接続してください。

1. ケーブルのシースと電線の被覆剥き

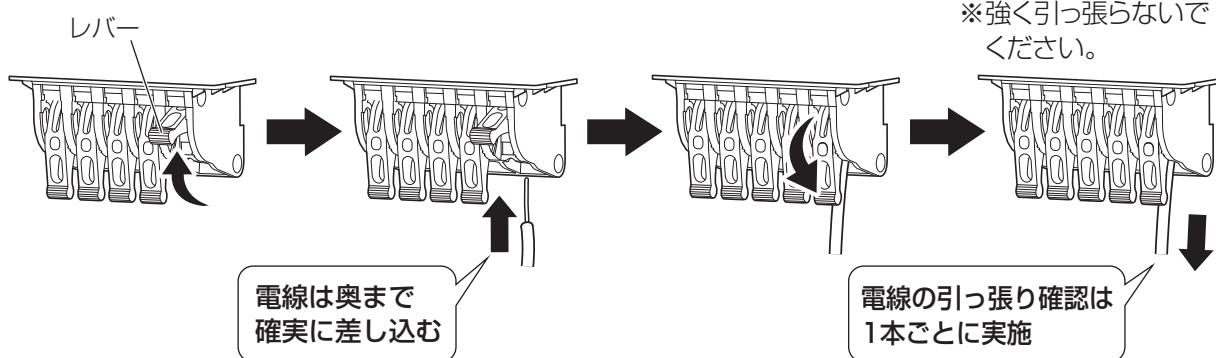
- ケーブルのシースおよび電線の被覆むきは適正なむき代で絶縁材、心線を傷つけず実施してください。また、下図のように電線の心線を広げたりよったり曲げたりしないでください。



2. 電線の端子への接続

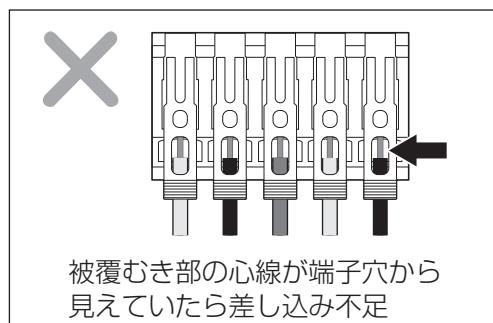
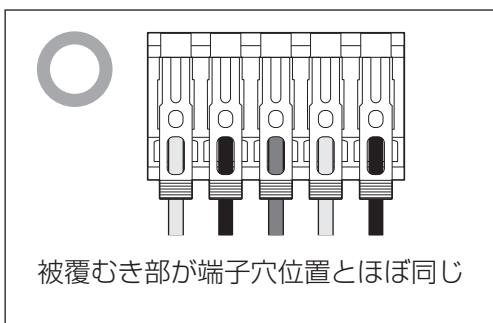
- 下図の手順で電線の心線部を端子の差し込み口に挿入し接続してください。

- ①レバーを引き上げ
解除状態にする。
- ②むいた電線を接続する
端子に奥まで差し込む。
- ③レバーを押し
下げる。
- ④電線を軽く引っ張り、
確実に接続されているか
確認する。
※強く引っ張らないで
ください。



3. 差し込み状態の確認

- 正しく接続されているか下図のように確認してください。
接続が不十分な場合は再接続してください。

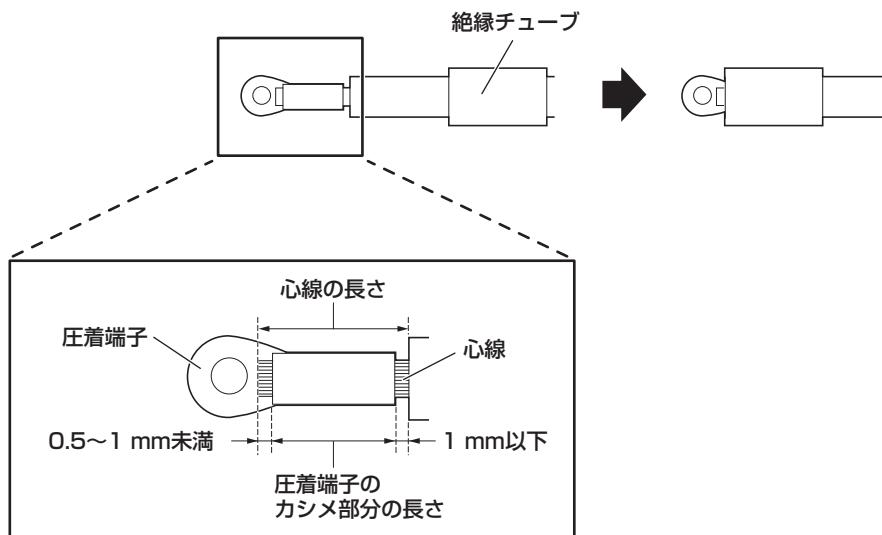


接地端子への接続

接地端子はネジ式端子です。指定電線に適合する圧着端子のカシメ処理を行い、その圧着端子を確実にネジで締め付けてください。

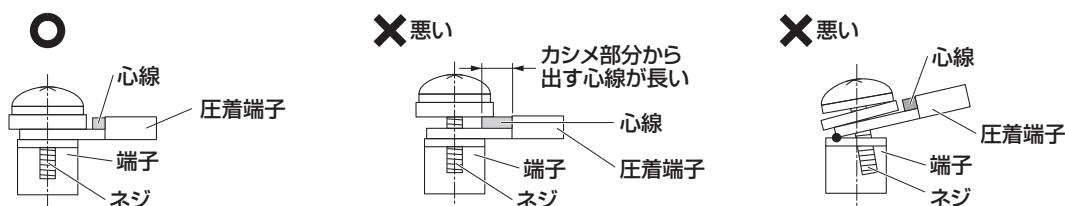
1. 電線の被覆剥き・圧着端子カシメ

- 電線の被覆むきを圧着端子のカシメに適した剥き代で心線を傷付けずに実施してください。
- 電線の心線に適した圧着端子を適正な工具で確実に圧着してください。
- 圧着端子の圧着部に絶縁チューブをはめてください。



2. 電線の端子への接続

- 圧着端子を接地端子にネジで指定のトルク値で確実に締め付けてください。
(締付トルク : 2.0 ~ 2.4 N·m)
- ネジに心線の挟み込み、ネジの斜め挿入やネジの締付不足がないことを確認してください。



ご注意

- 接地端子へのネジ締付けには、衝撃が加わる電動ドライバー・インパクトドライバーは端子破損する可能性がありますので使用しないでください。

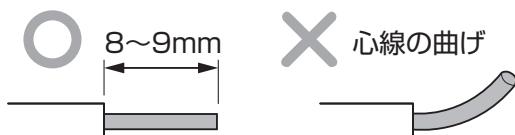
5-2. パワーコンディショナの配線接続（つづき）

通信端子への接続

通信端子はパワコン通信（MODBUS）用と外部停止用で同じ速結端子です。
指定電線を下記方法で確実に接続してください。

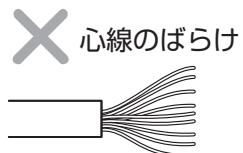
1. ケーブルのシースと電線の被覆剥き

- ケーブルのシースおよび電線の被覆むきを適正なむき代で絶縁材、心線を傷つけず実施してください。
また、下図のように電線の心線を曲げたりしないでください。



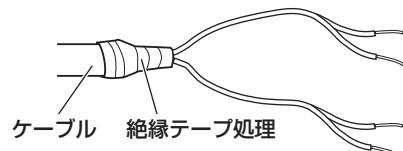
※ 外部停止用のケーブルはより線も可としていますが下記内容も守ってください。

- 心線をはんだ上げはしないでください。
- 心線がばらけたり、ひげが出る場合は適度に心線をよってください。
(より過ぎは厳禁)



2. ケーブルのシースの処理

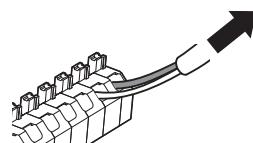
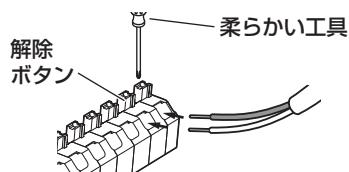
- ケーブルのシース剥き部は絶縁テープで処理してください。



3. 電線の端子への接続

- 下図の手順で電線の心線部を端子の差し込み口に挿入し接続してください。

- ①解除ボタンを押し下げ、心線を端子の奥まで差し込む。 ②電線を軽く引っ張り、確実に接続されているか確認する。
※ 強く引っ張らないでください。



※ 単線の場合は解除ボタンの押し下げは不要で、直接差し込むことが可能です。

■一括制御リモコン、外部機器の配線について

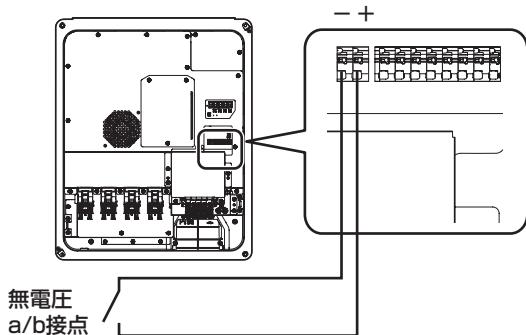
一括制御リモコンの配線方法は「6-3. 一括制御リモコンの配線」(29 ページ) を参照して、その他外部機器の配線方法についても外部機器の説明書を確認してください。

■外部停止入力への接続について

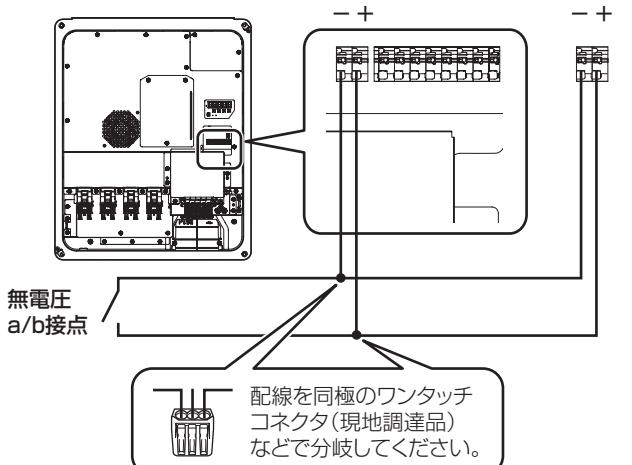
OVGRなどの外部停止入力を製品へ接続する場合は下記を守ってください。

また外部停止入力の動作については「8-2. 各種設定」(36 ページ) を参照してください。

<1台接続する場合>



<2台接続する場合>



5-3. パワーコンディショナの配線後の処置

製品内の配線が完了したら下記内容の確認と終端抵抗の設定をしてください。

1. 接続確認

- 接続線が正しい線種、接続先、極性になっているか確認してください。
- 端子への接続状態について、速結端子は差し込み不足になっていないか、ネジ端子は確実に締め付けられているかを確認してください。

2. ケーブルの処理状態確認

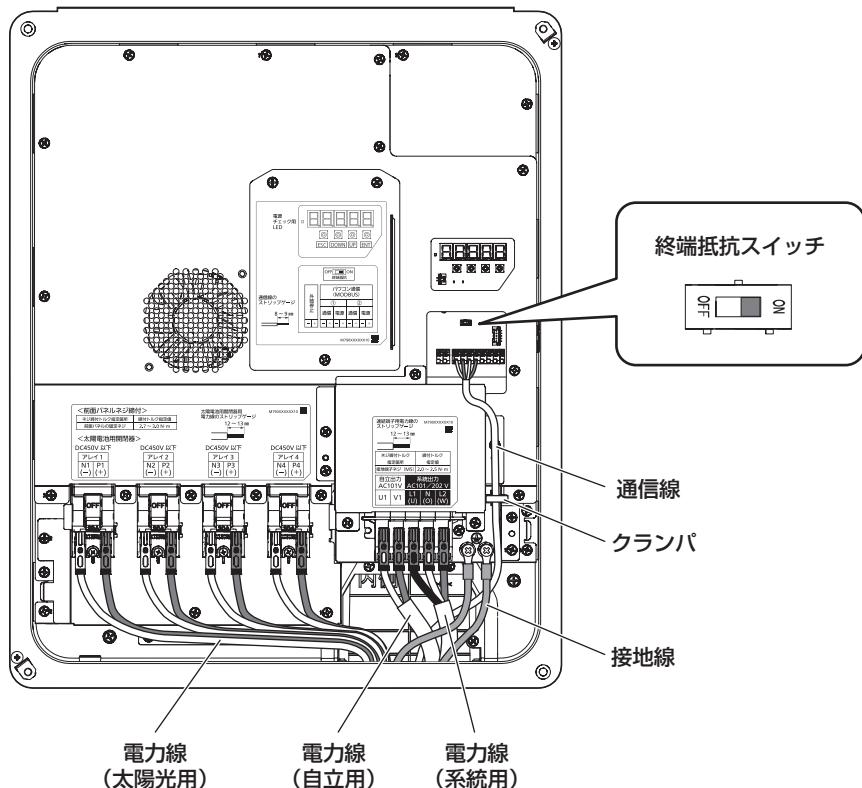
- 電力線、通信線が接触していないか確認してください。
- 前面パネルの取付時に全ての配線が挟み込まないように整線してください。
また通信線はクランパでホールドしてください。
- 配線時にパテやシーリング材によるシール部に隙間が発生した場合は隙間を埋める処理をしてください。

3. 終端抵抗の設定

- 製品、一括制御リモコンの終端抵抗は「1-2. 通信、外部制御システム構成」(6 ページ) を元に設定してください。
- 終端抵抗スイッチの設定は下図のスイッチにより行ってください。
※ 終端抵抗スイッチの初期設定は「ON」状態になっています。
- 一括制御リモコンの終端抵抗の設定方法は「配線後の処理」(30 ページ) を確認してください。

4. 前面パネルの取付け

- 配線後の確認、パワーコンディショナの設定まで時間が空く場合は前面パネルを取り付けてください。



6. 一括制御リモコンの設置・配線

6-1. 一括制御リモコンの設置場所について

一括制御リモコンは次のような場所には設置しないでください。

- 当社指定のシステム以外への接続
- 製品単品の屋外設置
- 周囲温度が動作温度範囲（-20 ℃～+50 ℃）外の場所（直接日光の当たる場所は避けてください）
- 指定の設置スペースを確保できない場所
- 標高が2,000mを超える場所
- 振動または衝撃を受ける場所
- 製品質量に耐えられない場所
- 電気的雑音の影響を受けると困る電気製品の近い場所
- 洗面所や脱衣所、台所のような著しく湿度の高い場所（湿度90%RH以下であること）
- 結露が発生する温度変化の激しい場所
- 過度の水蒸気・煙・塵・塩分・腐食性物質・爆発性／可燃性ガス・化学薬品・火気にさらされる場所およびさらされるおそれのある場所
- 油のかかる場所（コンロの付近など）
- 特殊薬品を使用する場所（ベンジン、油脂系の洗剤など）

屋外への設置について

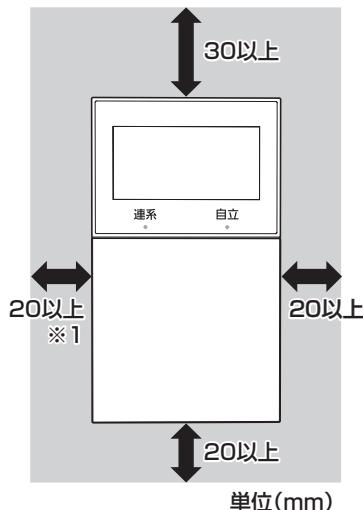
一括制御リモコンは屋内設置仕様であり、そのままの状態で屋外に設置しないでください。

※屋外に設置する場合は、屋外設置用BOX（IP44以上）を使用し、直射日光が当たらない、使用温度範囲-20 ℃～+50 ℃を守って設置してください。

※塩害地域に設置する場合はIP55相当のキャビネットを使用し、直射日光が当たらない場所に設置してください。

※一括制御リモコンをパワーコンディショナ内に設置しないでください。

一括制御リモコンに必要なスペース



➡➡ 印の寸法は、一括制御リモコンと境界（壁など）のスペースです。必ず確保してください。

※1 ふたを開く場合、75mm以上を確保してください。

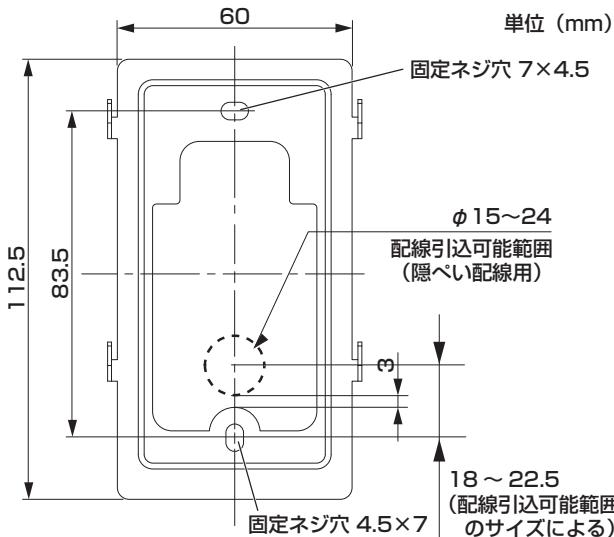
6-2. 一括制御リモコンの設置

取付金具の壁への固定

ご注意

- 付属品のリモコン用木ネジが壁材に適していない場合は壁の材質、構造に応じて適切なネジを現地調達して固定してください。
- 隠ぺい配線の場合は壁内の配線がリモコン用木ネジと接触しないようにしてください。
- 壁の配線引込部には異物侵入を防止するため必ずパテ材でシール処理をしてください。

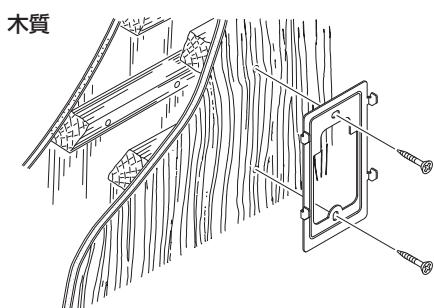
<取付金具>



※ 取付金具は一括制御リモコンに取り付いた状態になっています。「一括制御リモコンの配線前準備」(28 ページ) を参照して取り外してください。

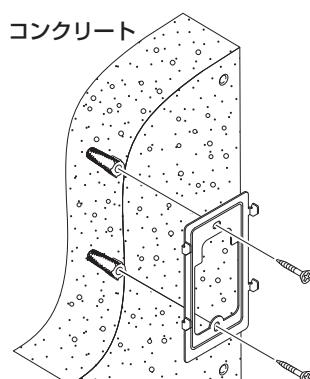
■木質壁面への固定

付属のリモコン用木ネジを使用します。



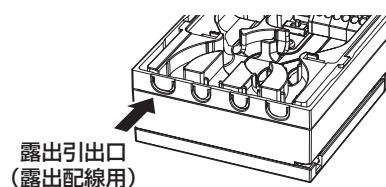
■コンクリート壁面への固定

取付金具の固定用穴 (φ 6 × 深さ 25 ~ 30 mm) を開け、オールプラグ 6 × 25 (現地調達品) を打ち込み、付属のリモコン用木ネジを使用して固定します。



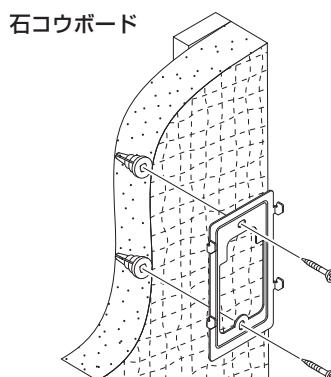
配線引込み

一括制御リモコンは隠ぺい配線と露出配線が可能です。隠ぺい配線の場合は、左図の位置の壁に配線穴を開けて配線引込みをしてください。露出配線の場合は一括制御リモコン下面の露出引出口を切り取って配線引込みをしてください。



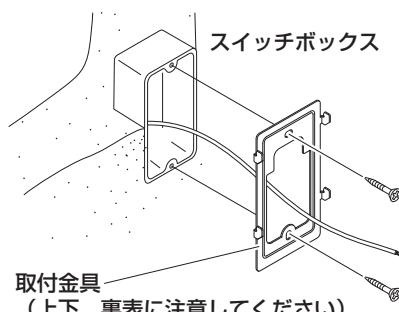
■石コウボード壁面への固定

石コウボードネジ・ボードアンカー (現地調達品)などを使用します。



■スイッチボックスへの固定

スイッチボックス・壁厚に適したネジ (現地調達品) を使用します。

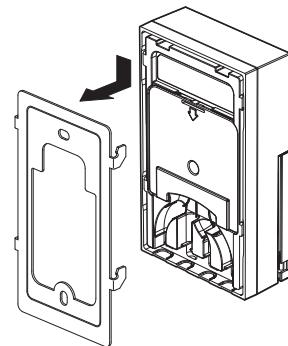


6-2. 一括制御リモコンの設置（つづき）

一括制御リモコンの配線前準備

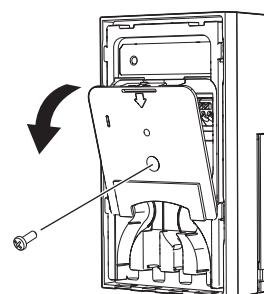
1. 取付金具の取外し

- 取付金具は矢印の方向にスライドさせ取り外します。



2. 配線カバーの取外し

- カバー固定ネジを緩めて外します。
- 配線カバーの上部の引っ掛け部を外し、配線カバーを取り外します。

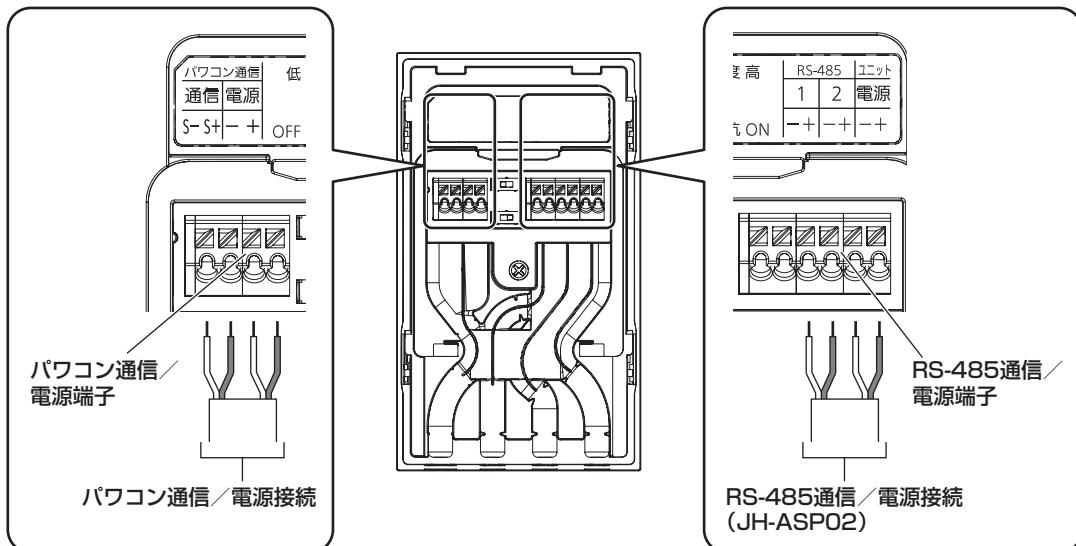


6-3. 一括制御リモコンの配線

ご注意

- 接続作業時には配線に電圧がないことを確認し作業を行ってください。(配線作業は、連系ブレーカ、パワー コンディショナ内の全ての開閉器が OFF(切)になっていることを確認してください)
- 配線作業は静電気による製品の損傷を防ぐために除電してから行ってください。
- 極性間違いや間違った端子への誤接続がないように確認し、接続してください。
- 端子への接続は指示された内容で確実に実施してください。

配線用端子の確認と接続先

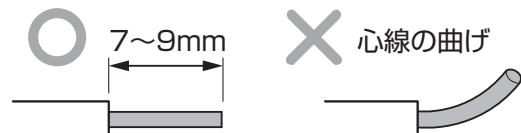


通信端子への接続

通信端子には指定電線を下記方法で確実に接続してください。

1. ケーブルのシースと電線の被覆剥き

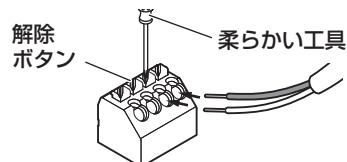
- ケーブルのシースおよび電線の被覆むきを適正なむき代で絶縁材、心線を傷つけず実施してください。
また、右図のように電線の心線を曲げたりしないでください。



2. 電線の端子への接続

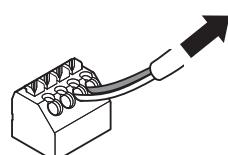
- 下図の手順で電線の心線部を端子の差し込み口に挿入し接続してください。

①心線を端子の奥まで差し込む。



②電線を軽く引っ張り、確実に接続されているか確認する。

※強く引っ張らないでください。



※解除する場合は解除ボタンを押し下げることにより電線を抜くことが可能です。

6-3. 一括制御リモコンの配線（つづき）

配線後の処理

端子への配線が完了したら下記内容を確認してください。

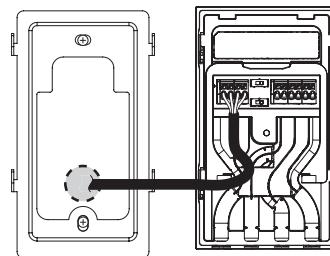
1. 接続確認

- 接続線が正しい線種、接続先、極性になっているか確認してください。
- 端子への接続状態について速結端子は差し込み不足になっていないかを確認してください。

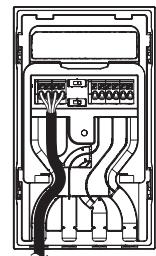
2. ケーブルの処理状態確認

- 配線時にパテやシーリング材によるシール部に隙間が発生した場合は隙間を埋める処理をしてください。
- 配線カバー、本体の取付時に全ての配線が挟み込まれないように、配線を本体凹部に収めるように整線してください。

・隠ぺい配線時

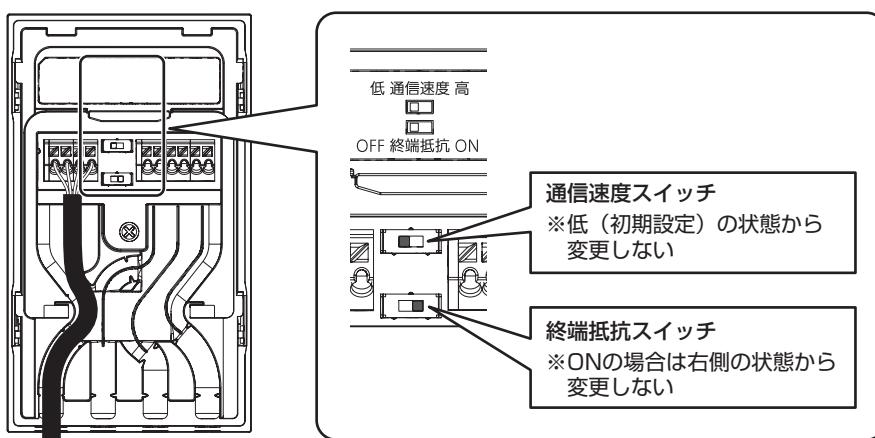


・露出配線時



3. 終端抵抗の設定

- 製品、一括制御リモコンの終端抵抗は「1-2. 通信、外部制御システム構成」(6 ページ) を元に設定してください。
- 終端抵抗スイッチの設定は下図のスイッチにより行ってください。
※終端抵抗スイッチの初期設定は「ON」状態になっています。



4. 配線カバーの取付け

- 配線カバー取外しの逆の手順で取り付けてください。
(締付トルク : 0.5 N·m)

5. 本体の取付け

- 壁に取り付けられた取付金具に、取外しと逆の手順で本体を取り付けてください。
その際、しっかりと固定がされているか確認してください。

7. 配線後の確認

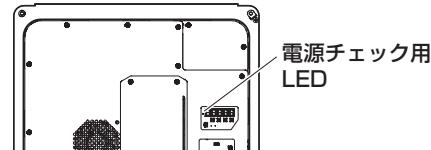
日中の発電が十分な時間帯に配線後の確認を行ってください。

ご注意

- 確認は静電気による製品の損傷を防ぐために除電してから行ってください。
- テスターおよび絶縁抵抗計での測定では、設定・極性に注意して測定してください。
- 測定中に判定基準を満たさない場合は、測定を中止して、配線および太陽電池モジュールを確認してください。

1. パワーコンディショナの電源 OFF 状態確認

- 太陽電池用開閉器および連系ブレーカを OFF 状態のまま、パワーコンディショナの電源用 LED が消灯していることを確認してください。



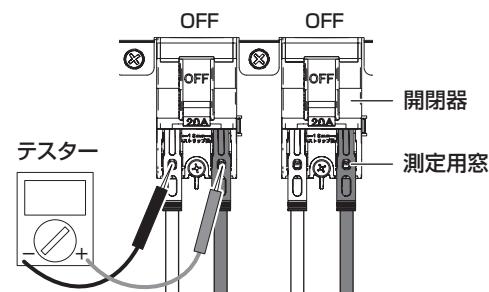
2. 接地極の接地抵抗確認

- 接地抵抗計を用いて接地極の接地抵抗値を測定し、指定の接地抵抗値を満たしているか確認してください。
※ 接地抵抗値は「1-1. 電力システム構成」(5 ページ) を参照してください。

3. 太陽電池モジュール回路の開放電圧測定

- 太陽電池用開閉器 OFF の状態で各開閉器入力端子の電圧を測定してください。

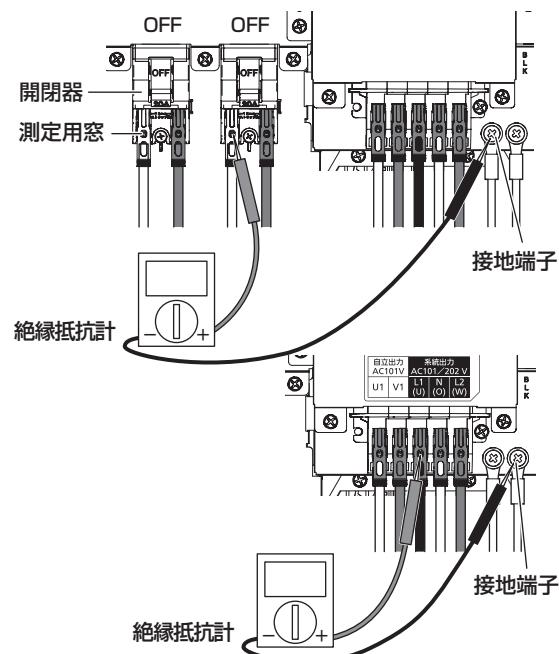
測定箇所	判定基準
太陽電池用開閉器の P-N 間 (P1-N1～P4-N4)	P1-N1～P4-N4 の開放電圧・極性が正しいこと



4. 太陽電池モジュール回路および系統端子の絶縁抵抗測定

- 太陽電池用開閉器 OFF の状態で各開閉器入力端子の P 側(+)、N 側(-)と接地端子の間、系統端子 L1(U)、N(O)および L2(W)と接地端子間の絶縁抵抗を測定してください。
(印加電圧はDC500 Vにしてください)

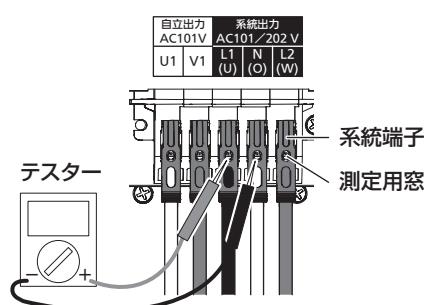
測定箇所	判定基準
太陽電池用開閉器の P 端子(P1～P4)と接地端子間、N 端子(N1～N4)と接地端子間	0.4 M Ω以上 (太陽電池モジュールの開放電圧が 300 V 以下の場合は、0.2 M Ω以上)
系統側の系統端子(L1(U)、N(O)、L2(W))と接地端子間	0.4 M Ω以上



5. 系統電圧の測定

- 連系ブレーカを ON してください。
- 下表の系統端子の電圧を測定してください。

測定箇所	判定基準
L1(U)-N(O) 間	AC101 ± 6 V
L2(W)-N(O) 間	AC101 ± 6 V
L1(U)-L2(W) 間	AC202 ± 12 V



6. 測定後の処置

- 連系ブレーカを OFF してください。
- 設定および試運転開始に移行してください。
※ 設定までに期間が空く場合は前面パネルを取り付けてください。

8. 設定と試運転

日中の発電が十分な時間帯に設定および試運転してください。

ご注意

- 製品内の充電部へ接触しないようにしてください。
- 確認は静電気による製品の損傷を防ぐために除電してから行ってください。

設定、試運転および確認手順

8-1. 設定前準備

8-2. 各種設定

1. システム設定 : 一括制御リモコンや外部機器の機器間通信の選択や、パワーコンディショナ複数台接続時のアドレス設定用
2. 自立運転設定 : パワーコンディショナの自立運転時の動作条件の設定用
3. 整定値設定 : 電力会社と協議し決定する整定値の設定用
4. その他機能設定 : パワーコンディショナのクリップ制御や外部停止機能の設定用

8-3. 自立試運転および確認

8-4. 連系試運転および確認

8-5. 設定、試運転後の確認

※ 電力会社との連系協議までに期間が空く場合は先に自立試運転および確認まで実施し、連系協議完了後に整定値設定・連系試運転および確認を実施することも可能です。

8-1. 設定前準備

1. システム確認

- 事前に外部機器通信、外部停止入力などのシステムとして接続がある場合は、その内容を「整定値一覧表」(33 ページ) および本機に貼付されている整定値一覧に記入してください。

2. 電力会社との連系協議

- 整定値を電力会社と協議し、協議結果を「整定値一覧表」(33 ページ) および本機に貼付されている整定値一覧に記入してください。

3. 太陽電池モジュールからの電源投入

- 太陽電池用開閉器を ON にし、電源チェック用 LED が点灯していることを確認してください。

※ 太陽電池モジュールからの電源供給がないと設定できませんのでご注意ください。

※ 連系前となりますので連系ブレーカは OFF のままとしてください。

整定値一覧表

- 工場出荷時は全て初期値が設定されています。
- 3.整定値設定は電力協議が必要です。電力会社に確認し値を設定してください。
- パワーコンディショナの複数台設置の場合でも、全てのパワーコンディショナを設定してください。
- 保守点検に支障を来しますので、初期値から設定変更をした場合には必ず下表および本機に貼付されている整定値一覧に変更値を記入、または○印をつけて記録してください。

分類	設定項目		整定値（設定値）		
	表示（アルファベット）	項目名	変更値	候補値（白抜き文字は初期値）	
1.システム設定	1. rEM (rEM)	機器間通信選択		rEM-A / rEM-b / othEr / ---	—
	2. Adr (Adr)	通信アドレス		1 ~ 31	—
2.自立運転設定	3. JFr (JFr)	自立周波数		50 / 60	Hz
	4. Jch (Jch)	連系自立自動切替		on / off	—
3.整定値設定 (電力協議)	5. Avr (Avr)	電圧上昇抑制レベル		107.0 / 107.5 / 108.0 / 108.5 / 109.0 / 109.5 / 110.0 / 110.5 / 111.0 / 111.5 / 112.0 / 112.5 / 113.0	V
	6. ov (ov)	系統過電圧レベル (OVR)		110.0 / 112.5 / 115.0 / 117.5 / 120.0	V
	7. ovt (ovT)	系統過電圧時限 (OVT)		0.5 / 1.0 / 1.5 / 2.0	秒
	8. Uv (Uv)	系統不足電圧レベル (UVR)		80.0 / 82.5 / 85.0 / 87.5 / 90.0	V
	9. Uvt (UVT)	系統不足電圧時限 (UVT)		0.5 / 1.0 / 1.5 / 2.0	秒
	10. of (oF)	系統周波数上昇レベル (OFR)		50.5 / 51.0 / 51.5 / 52.0 / 52.5 60.6 / 61.2 / 61.8 / 62.4 / 63.0	Hz
	11. oft (oFT)	系統周波数上昇時限 (OFT)		0.5 / 1.0 / 1.5 / 2.0	秒
	12. UF (UF)	系統周波数低下レベル (UFR)		47.5 / 48.0 / 48.5 / 49.0 / 49.5 57.0 / 57.6 / 58.2 / 58.8 / 59.4	Hz
	13. Uft (UFT)	系統周波数低下時限 (UFT)		0.5 / 1.0 / 1.5 / 2.0	秒
	14. PJP (PJP)	位相跳躍		6 / 8 / 10 / 12	度
	15. hLd (hLd)	連系保護リレー時限		300 / 150 / 5 / oPr (手動復帰)	秒
	16. PF (PF)	力率		1.00 / 0.99 / 0.98 / 0.97 / 0.96 / 0.95 / 0.94 / 0.93 / 0.92 / 0.91 / 0.90 / 0.89 / 0.88 / 0.87 / 0.86 / 0.85 / 0.84 / 0.83 / 0.82 / 0.81 / 0.80	—
	17. ALF (ALF)	並列時許容周波数		0.10 / 0.15 / 0.20 / 0.25 / 0.30 / 0.35 / 0.40 / 0.45 / 0.50 / 0.55 / 0.60 / 0.65 / 0.70 / 0.75 / 0.80 / 0.85 / 0.90 / 0.95 / 1.00	Hz
4.その他機能設定	18. cLP (cLP)	クリップ制御電力値		off (定格出力電力) ~ 2.5 (0.1 刻み)	kW
	19. STS (STS)	外部停止信号接点入力設定		open / cLoSE	—
	20. Ghd (Ghd)	外部停止復帰時限		off / on	—

8-2. 各種設定

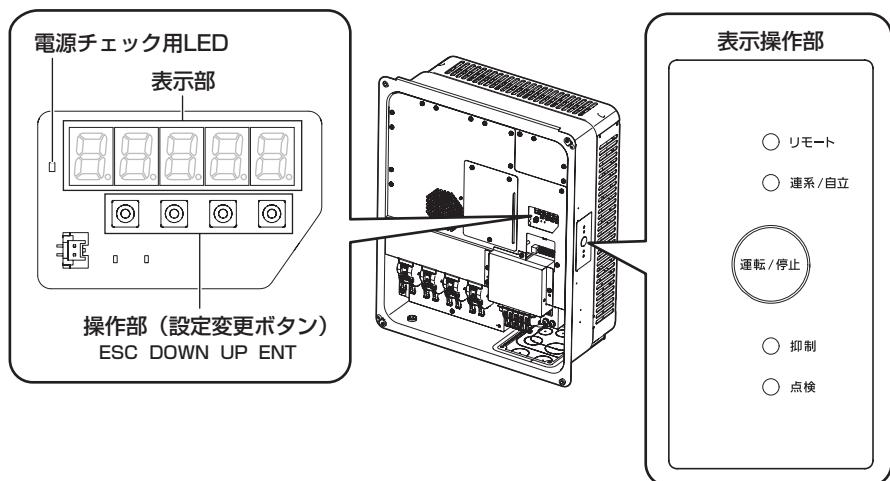
ご注意

- 各種設定前にパワーコンディショナの運転を開始しないでください。

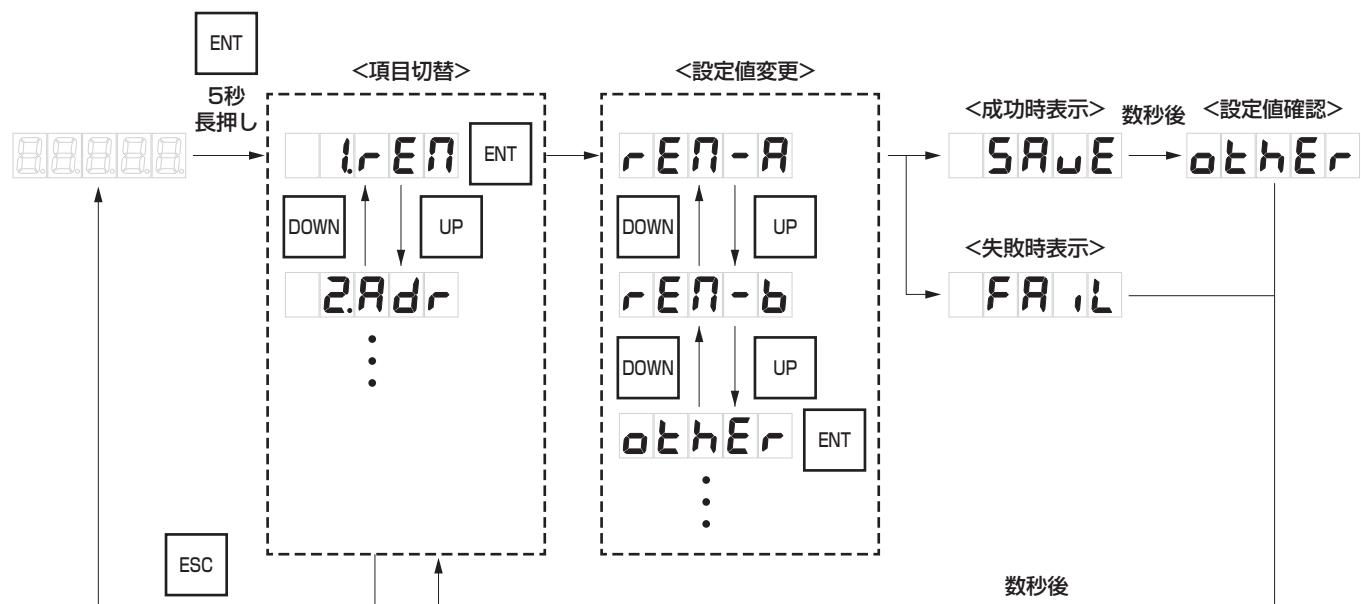
設定操作

パワーコンディショナの設定変更ボタン「ESC」、「DOWN」、「UP」、「ENT」を操作し、通信アドレスや整定値などの各種設定を行ってください。

ESC : 前の画面に移動
DOWN : 下の項目に移動
UP : 上の項目に移動
ENT : 項目を確定



■ 設定操作（機器間通信選択 [1.rEM] で外部機器接続 [othEr] を設定する例）



※ 十分な日射がない場合には設定の途中で **Lou** が表示され設定できませんので、再度十分な日射がある時に設定してください。

※ **FAIL** が表示された場合は設定が失敗しているため再度設定してください。

■ 設定表示確認方法

「パワーコンディショナの表示方法」(42 ページ) を参照してください。

設定方法

1. システム設定

設定項目	設定値	設定方法
機器間通信選択 (rEM) 	rEM-A (rEM-A) 初期値	「1-2. 通信、外部制御システム構成」(6 ページ) を参照して、接続する機器により設定してください。
	rEM-B (rEM-b)	<設定方法> rEM-A: 一括制御リモコンを接続する場合 ^{*1} rEM-b: 本製品では使用しません。
	otheEr (othEr)	othEr : RS-485 で通信する外部機器を接続する場合 ^{*2}
	---	--- : 一括制御リモコンや外部機器などを接続しない場合
通信アドレス (Adr) 	初期値 31 (1 ~ 31)	パワーコンディショナを複数台接続する場合に、パワーコンディショナの識別のために通信アドレスを設定してください。 ※最大設定可能台数は 31 台ですが一括制御リモコン、外部機器などにより最大接続数が異なりますので各機器の説明書をご確認ください。 ※パワーコンディショナが複数台の場合、一括制御リモコンと外部機器の最大接続数の少ない台数が上限となります。 一括制御リモコン JH-RPL3 : 最大 12 台 電力計測制御ユニット JH-ASP02 : 最大 5 台もしくは最大 12 台 (設定による)

※ 1 一括制御リモコン経由で外部機器の接続がある場合も [rEM-A] で設定してください。

※ 2 外部機器の説明書をご確認ください。

2. 自立運転設定

設定項目	設定値	設定方法
自立周波数 (JFr) 	50 (50 Hz) 初期値	電力会社の周波数に合わせて周波数 50 / 60 Hz を設定してください。
	60 (60 Hz)	※ 設定段階で連系ブレーカを ON した場合、周波数は系統周波数に自動設定されることにより と表示され、設定変更できません。
連系自立 自動切替 (JcH) 	OFF (手動) 初期値	自立運転時の手動／自動を設定してください。 (復電時の運転開始時限は連系保護リレーの時限設定による)
	ON (自動)	※ 手動に設定した場合は停電時の自立運転、復電時の連系運転は、運転／停止ボタンにより手動操作しなければ開始しませんのでご注意ください。 ※ 自動に設定した場合は停電時の自立運転、復電時の連系運転を自動的に開始しますのでご注意ください。

3. 整定値設定

設定項目	設定値	設定方法
電圧上昇 抑制レベル (Avr) 	「整定値一覧表」(33 ページ) を参照	電力会社に確認し各設定項目の値を設定してください。 ※ 連系保護リレー時限 (HLd) を手動復帰に設定した場合、連系運転してからは停電後の復電時に点検コード U899 を表示し、連系運転の待機状態になります。連系運転に復帰する場合には運転／停止ボタンを押して開始してください。
並列時 許容周波数 (ALF) 		

8-2. 各種設定 (つづき)

4. その他機能設定

■ クリップ制御電力値

設定項目	設定値	設定方法
クリップ制御電力値 (cLP) 18.2LP	<input type="text"/> OFF (OFF) 初期値 <input type="text"/> 25 (2.5 kW)	設備認定容量を超えないように上限値を設定してください。 <設定方法> ※ [OFF] 時 (定格出力電力) ~ 2.5 kWまで 0.1 kW刻みで設定可能

■ 外部停止

設定項目	設定値	設定方法
外部停止信号接点入力設定 (STS) 19.5t5	<input type="text"/> oPEn (oPEn) 初期値	外部停止信号接点入力設定が必要な場合、接点入力の接点タイプを設定してください。 <設定方法> oPEn : 無電圧 a 接点の場合 (Normally Open) cLoSE: 無電圧 b 接点の場合 (Normally Close) ※ 外部停止信号接点入力設定が不要な場合は初期値の oPEn のままとしてください。
	<input type="text"/> cLoSE (cLoSE)	
外部停止復帰時限 (Ghd) 20.0hd	<input type="text"/> OFF (OFF) 初期値	外部停止信号接点入力があり、復帰時限条件の設定が必要な場合に設定してください。 <設定方法>
	<input type="text"/> on (on)	oFF: 復帰時限なし on : 復帰時限あり (時限は連系保護リレー時限の設定値による ^{*3})

*3 外部停止復帰時限と連系保護リレー時限の設定値による動作は下表によります。

	設定項目		停止解除後の動作
	外部停止復帰時限 (Ghd)	連系保護リレー時限 (HLd)	
設定値	OFF	300/150/5	約5秒経過後に運転開始
		oPr (手動復帰)	手動操作後、約5秒経過で運転開始
	on	300/150/5	時限設定値+約5秒経過で運転開始
		oPr (手動復帰)	手動復帰後、約5秒経過後に運転開始

8-3. 自立試運転および確認

1. 事前確認

- 太陽電池用開閉器は ON で連系ブレーカは OFF 状態となっているか確認してください。

2. 自立試運転の開始

- 運転／停止ボタンを約5秒長押しして自立運転を開始してください。
※一番最初に起動する場合は、自立運転切替を自動にした場合でも運転開始操作をして起動させる必要があります。
- ※一括制御リモコンを接続している場合は、さらに一括制御リモコンの運転／停止スイッチも「運転」にしてください。
- 自立運転が開始すると本体表示操作部の連系／自立ランプが「自立運転」の点滅パターンで点滅します。
※一括制御リモコンを接続している場合は、一括制御リモコンの自立ランプも点灯し発電電力（自立運転コンセントに接続された機器の消費電力）も表示されます。

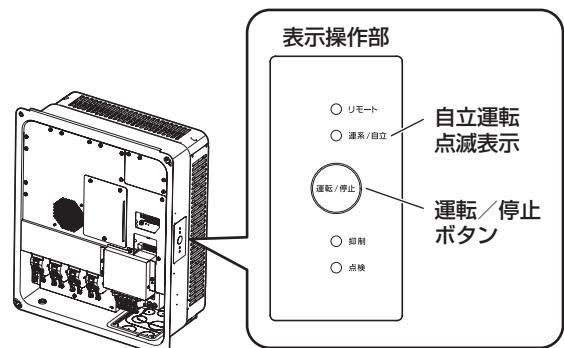
3. 自立試運転電圧の測定

- 自立端子の U1-V1 間の電圧を測定し、判定基準を満たしているか確認してください。

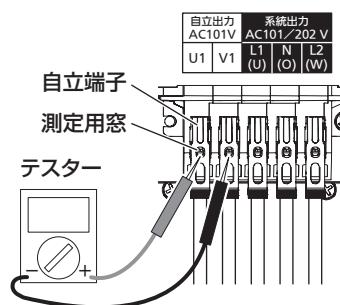
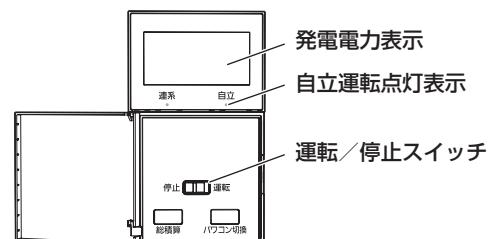
測定箇所	判定基準
U1-V1 間	AC101 ± 6 V

4. 測定後の処置

- 運転／停止ボタンを 5 秒以上長押しすることにより運転停止し、連系試運転に移行してください。
※設定までに期間が空く場合は、太陽電池用開閉器を OFF にして前面パネルを取り付けてください。



<一括制御リモコン>



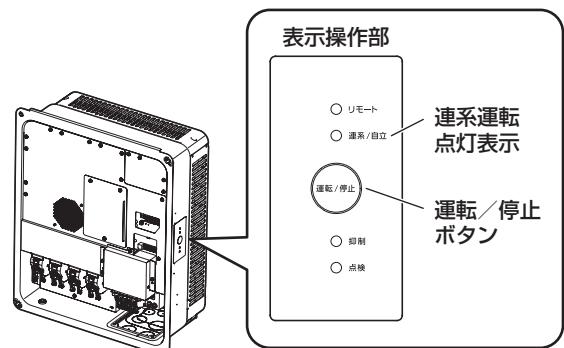
8-4. 連系試運転および確認

1. 事前確認

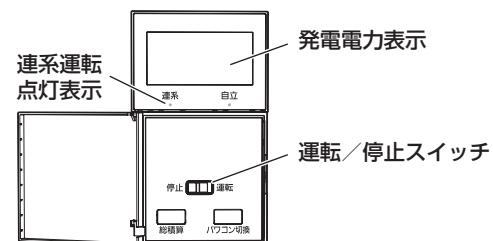
- 太陽電池用開閉器は ON で連系ブレーカは ON 状態となっているか確認してください。

2. 連系試運転の開始

- 運転／停止ボタンを 5 秒以上長押しして連系運転を開始してください。
※一括制御リモコンを接続している場合は、さらに一括制御リモコンの運転／停止スイッチも「運転」にしてください。
- 連系運転が開始すると本体表示操作部の連系／自立ランプが「連系運転」の点灯パターンで点灯します。
※一括制御リモコンを接続している場合は、一括制御リモコンの連系ランプも点灯し発電電力も表示されます。



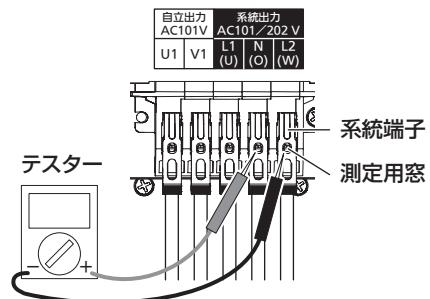
<一括制御リモコン>



3. 連系試運転電圧の測定

- 下表の系統端子の連系運転中の電圧を測定してください。

測定箇所	判定基準
L1 (U) -N (O) 間	AC101 ± 6 V
L2 (W) -N (O) 間	AC101 ± 6 V
L1 (U) -L2 (W) 間	AC202 ± 12 V



8-5. 設定、試運転後の確認

1. 設定、試運転時の確認内容

- 動作確認以外の設定値の確認は、運転を停止して下記を確認してください。

区分	項目	確認内容	チェック
システム設定確認	機器間通信選択	接続する機器に対して正しく設定されていて、接続する機器含めて正常に動作しますか。 ※ 何も接続しない場合は必ず [---] に設定してください。	
	通信アドレス	パワーコンディショナが複数台接続されている場合は、通信アドレスを正しく設定していますか。 ※一括制御リモコンが接続されている場合は、右図のパワコン切換ボタンでパワーコンディショナのアドレスが正しく表示されているか確認してください。	
自立運転設定確認	連系／自立切替動作	連系運転中に連系ブレーカを OFF (停電状態) とし自立運転に切り替わりますか。また、自立運転中に連系ブレーカを ON (復電状態) とし連系運転に切り替わりますか。 ※ 連系自立自動切替を手動に設定した場合は、切替には運転／停止ボタンの手動操作が必要です。自動に設定した場合は自動的に切り替わります。	
整定値設定確認	整定値	電力会社から指定された設定値で設定されていますか。 (「3. 整定値確認モード」(42 ページ) 参照)	
その他機能設定確認	クリップ制御電力値	クリップ制御が必要な場合は、正しい電力値で設定されていますか。 (「3. 整定値確認モード」(42 ページ) 参照)	
	外部停止動作	外部停止入力の接続がある場合は、外部入力による動作が正常ですか。	
共通		初期値から変更した設定値（整定値含む）については、「整定値一覧表」(33 ページ) および本体の整定値一覧に正しく記入されていますか。 ※ 本体の設定表示確認（「3. 整定値確認モード」(42 ページ)）で設定値を表示させ記入内容と合致しているか照合してください。	
		運転中は正しく発電電力が表示されますか。 	
試運転履歴クリア		試運転で発生した積算電力量や点検コードは必要に応じて「10-2. 履歴のクリア方法について」(44 ページ) を参照して履歴をクリアしてください。	

8-5. 設定、試運転後の確認（つづき）

2. 製品施工状態の最終確認

- 引き渡し前の製品施工状態の最終確認として下記を確認してください。

No.	確認内容	チェック
1	本体は「3. パワーコンディショナの設置場所」(11 ページ) を守った場所に設置されていますか。 また上下左右・前方に必要なスペース（離隔距離）は正しく確保されていますか。	
2	施工場所の強度は本体の質量に十分耐える場所で、適正な種類・本数のネジで確実に固定されていますか。	
3	取付部品は全て取り付けて確実に固定されていますか。	
4	接地線の接続は確実ですか。（接地抵抗は 100 Ω以下になっていますか）	
5	配線の電線種、電線径は適正なものを使用し、各端子への接続は指示された内容で確実に接続されていますか。	
6	引込部のシール処理は確実にされていますか。 また、シール材で水抜き穴を塞いでいませんか。	
7	太陽電池モジュール各回路の開放電圧、絶縁抵抗を測定しましたか。	
8	(前面パネル固定後の確認) 前面パネルは指定のトルク値で確実に固定していますか。	

3. 確認後の処置

- 「前面パネルの取付け」(18 ページ) を参照して、前面パネルを取り付けてください。

- その後、引き渡しに移行してください。

※引き渡しまで期間が空く場合は必要に応じて運転停止状態とし、太陽電池用開閉器、連系ブレーカーを OFF にしてください。

9. 引き渡し

1. お客様への説明

- お客様への引き渡し前には必ず下記内容を説明してください。

No.	説明項目	説明内容	チェック
1	製品の説明	パワーコンディショナの仕様、注意事項などを説明してください。	
2	製品設置場所	パワーコンディショナ、一括制御リモコンの設置場所を説明してください。	
3	連系ブレーカの設置場所	連系ブレーカの設置場所および操作方法について説明してください。	
4	自立運転コンセントの設置場所	自立運転コンセントの設置場所を説明してください。 また付属の自立運転コンセントラベルの貼付する位置をお客様に相談し、必要に応じてその場所へ貼付してください。	
5	製品の操作方法	パワーコンディショナ、一括制御リモコンからの運転、停止方法などの操作方法や表示内容について説明してください。	
6	重要事項	<p>連系自立自動切替の注意事項について、下記内容および取扱説明書記載の停電時の自立運転の注意事項の内容を説明してください。 また必要に応じて実機により切替動作をし説明してください。 ※自立運転コンセントに常時機器を接続したままにしないことも説明してください)。</p> <p>■連系自立自動切替が手動 (oFF) になっている場合 停電時、復電時には運転開始のために運転／停止ボタンによる手動操作が必要となります。 また、一括制御リモコンが接続されている場合、一括制御リモコンの運転／停止スイッチによる手動操作が必要となります。 ※停電時に自立運転開始の操作をしなければ運転停止状態を継続します。 ※自立運転中に復電した場合でも、自立運転停止および連系運転開始の操作をしなければ自立運転状態を継続します。 (自立運転中に夜から朝を迎えた場合でも自立運転状態を継続)</p> <p>■連系自立自動切替が自動 (on) になっている場合 停電時の自立運転、復電時の連系運転を自動的に開始します。 ※停電時に接続負荷の状態によらず自動給電しますので、その場合に不安全となるおそれのある機器は接続しないでください。</p> <p>その他自立運転時に接続する電気機器についても、取扱説明書記載の停電時の自立運転の注意事項の内容を説明してください。</p>	

2. 引き渡し

- 製品に同梱されている取扱説明書（保証書付き）、施工説明書、検査成績書をお客様に渡してください。
- お客様の意向にそってパワーコンディショナを運転開始もしくは運転停止し引き渡しを完了してください。

10. こんなときは

10-1. 積算電力量、点検コード、整定値などの表示方法について

表示部への表示は運転中および運転停止中に行えますが、各種モードの確認は日中の発電が十分な時間帯でしか行えません。

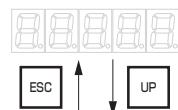
パワーコンディショナの表示方法

ご注意

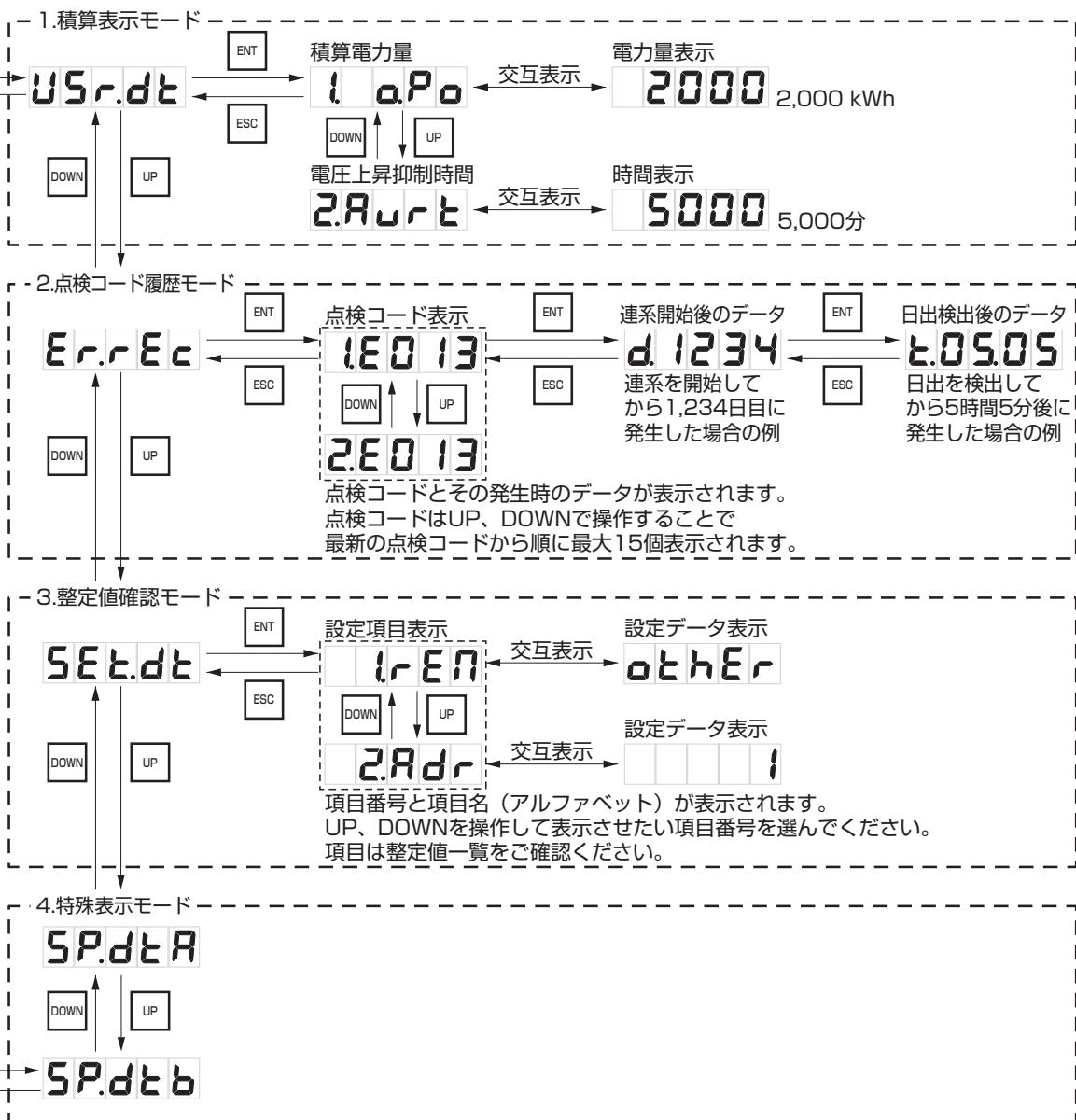
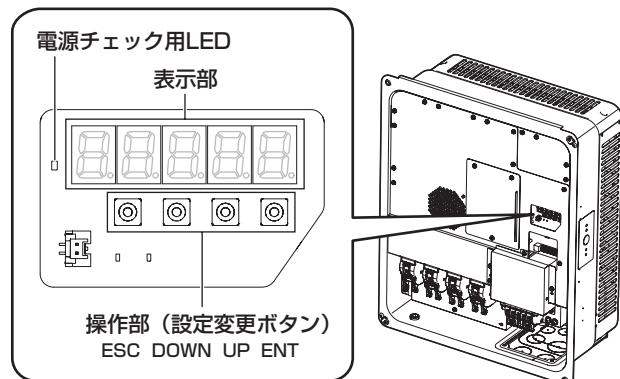
- 製品内の充電部へ接触しないようしてください。
- 各種モードの確認は静電気による製品の損傷を防ぐために除電してから行ってください。

<初期状態>

運転中の場合 : 発電電力表示
運転停止中の場合 : 点検コード表示（点検時）
表示なし（点検以外）



※各モードはESC選択、無操作150秒により初期表示に戻ります。



■表示できる点検コード履歴

- 点検コード履歴 : 最大 15 件

※点検コード履歴は最新の点検コードが表示され、ボタンを押すたびに古いコードが表示されます。
一番古いコードの次の表示は最新の点検コードに戻ります。

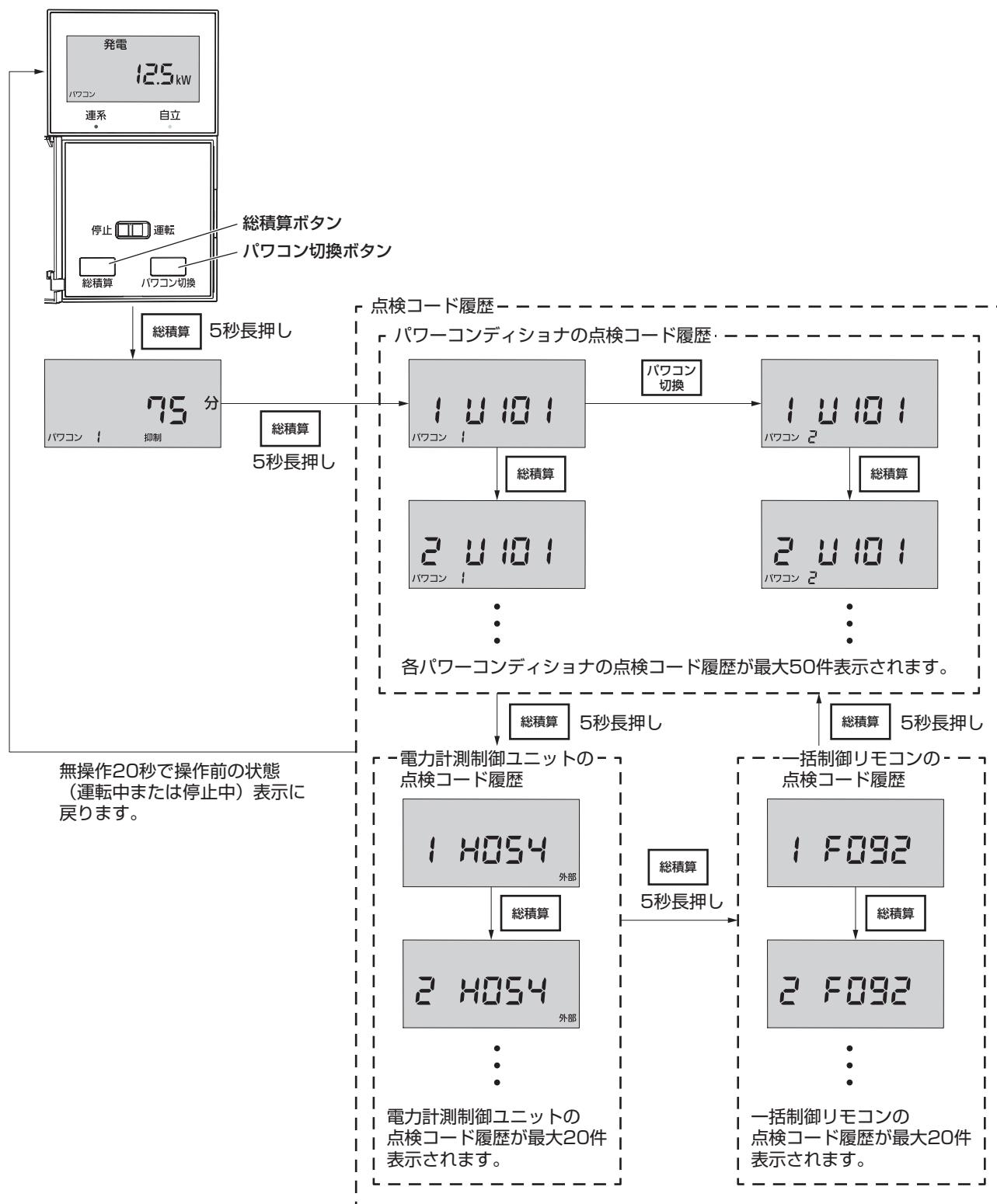
一括制御リモコンの点検コードの表示方法

■表示できる点検コード履歴

- 一括制御リモコンに接続しているパワーコンディショナの点検コード履歴：最大 50 件
- 電力計測制御ユニット（JH-ASPO2）の点検コード履歴：最大 20 件^{*1}
- 一括制御リモコンの点検コード履歴：最大 20 件

※各点検コード履歴は最新の点検コードが表示され、ボタンを押すたびに古いコードが表示されます。
一番古いコードの次の表示は最新の点検コードに戻ります。

※ 1 電力計測制御ユニットが未接続の場合は、電力計測制御ユニットの点検コード履歴は表示しません。



10-2. 履歴のクリア方法について

ご注意

- 製品内の充電部へ接触しないようにしてください。
- 静電気による製品の損傷を防ぐために除電してから行ってください。

パワーコンディショナの履歴クリア方法

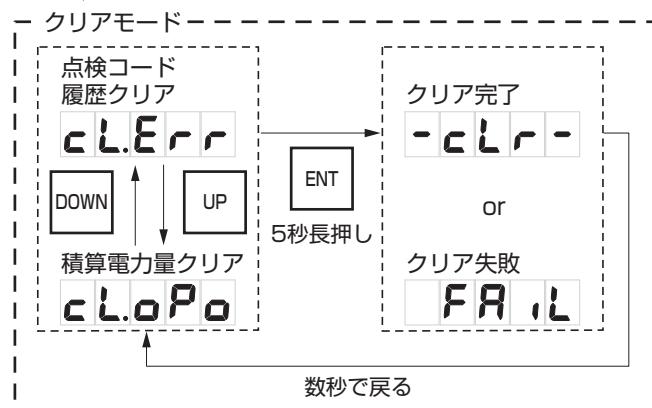
試運転時に発生した積算電力量、点検コードの履歴をクリアする場合などに実施してください。

■履歴クリア方法

右図によりクリアモードに遷移しクリアする項目を選択した後に ENT を 5 秒以上長押しすることで、クリア処理が開始され、**-cLr-** が表示されることによりクリア処理が完了します。

項目	表示
積算電力量クリア	cLoPo
点検コード履歴	cLErr

停止中



一括制御リモコンの履歴クリア方法

パワーコンディショナ本体の積算電力量、点検コードの履歴をクリアすると、一括制御リモコン内のデータも連動してクリアされます。

10-3. 一括制御リモコンが正しく表示されない場合について(一括制御リモコンありの場合)

パワーコンディショナに設定していないアドレスが一括制御リモコンに表示される場合

パワーコンディショナを複数台接続する場合、各パワーコンディショナに通信アドレス設定を行う必要があります。通信アドレス設定中にアドレス設定の修正を行うなどした場合、一括制御リモコンに修正後のアドレスと異なる表示が出ることがあります。

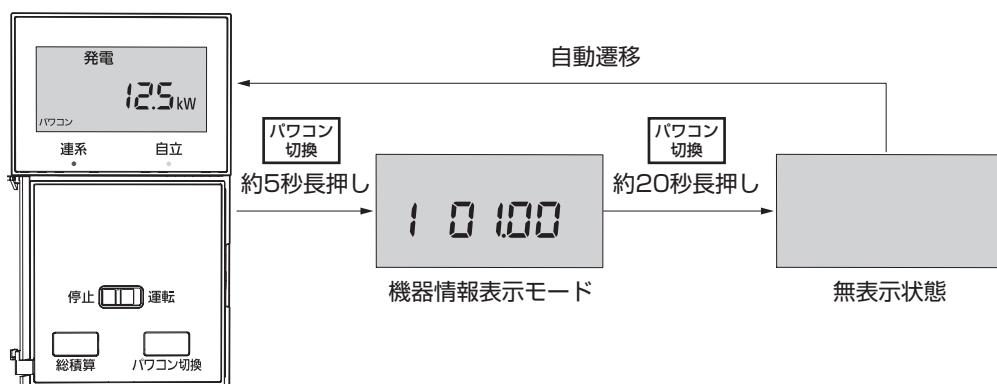
この場合、一括制御リモコンに表示されている通信アドレスを一致させる必要がありますので、下記の方法で実施してください。

■表示を一致させる方法

発電電力表示画面でパワコン切換ボタンを約5秒長押しして機器情報表示モード（ver表示）にした後に、さらにパワコン切換ボタンを約20秒長押しします。

その後ブザーが鳴り、表示部のパワコン番号がクリアされ、表示が消え数秒後に再表示されます。

その再表示された通信アドレス表示が正しいか確認してください。



一括制御リモコンの画面に表示されないなどの場合

一括制御リモコンにパワーコンディショナの状態が表示されないなどの場合は、設定や接続に問題がある可能性があります。

下記内容で対処し再確認してください。

①機器間通信選択の誤設定

一括制御リモコンの接続がある場合は必ず機器間通信選択を [rEM-A] に設定してください。

異なる設定値になっている場合は [rEM-A] に変更してください。

<誤設定例>

[rEM-b]、[--] で設定してしまった場合：何も表示されない

[othEr] で設定してしまった場合 : 「操作無効有」と表示され一括制御リモコンからの操作ができない

②一括制御リモコンの通信速度スイッチの誤設定

通信速度スイッチは必ず「低」に設定してください。「高」に設定している場合は「低」に変更してください。

<誤設定例>

「高」にしてしまった場合：何も表示されない

③パワーコンディショナ、一括制御リモコンの通信線の誤接続もしくは接続不完全

通信線の極性や電源／通信の接続先の誤接続や接続不完全の場合は何も表示されません。

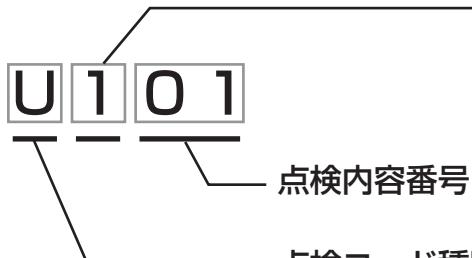
誤接続や接続不完全がないか確認し、問題があれば修正してください。

* 上記内容で一括制御リモコンと通信ができていない場合は、パワーコンディショナの表示操作部のリモートランプも点灯／点滅しません。

10-4. 点検表示について

パワーコンディショナや商用電源の状態などをパワーコンディショナ本体の表示部や一括制御リモコンで表示します。点検コードは、4桁で表されています。アルファベット含む点検コードで点検コード種別、発生内容を特定することができます。

点検コード表



発生箇所番号

- 0 : 商用電源(系統)側／一括制御リモコン
(一括制御リモコンの点検コード(092)は
一括制御リモコンにのみ表示されます)
- 1 : パワーコンディショナ(系統側)
- 3 : パワーコンディショナ(太陽光側)
- 8 : システム全体

点検コード種別

- E : 商用電源(系統)側での問題です。自動で復帰します。
- U : 下記の対処を実施後、再起動することで復帰します。
- P : 故障ではありません。正常に戻り次第、自動で復帰します。
- H : 修理相談窓口にご連絡ください。
- F : 修理相談窓口にご連絡ください。

※種別 E、P の点検コードは一括制御リモコンには表示されません。

■点検コードの内容と対処方法

点検コードの番号と点検コード種別の対処方法をご確認ください。

点検コード	内容と対処方法
092	一括制御リモコン 機器異常 ●一括制御リモコン内部に異常が発生しました。
101	パワーコンディショナ 昇圧不足電圧異常 ●機器内部の内部電圧が異常な値となり、運転停止しました。
102～104	パワーコンディショナ 昇圧電圧異常 ●機器内部の昇圧に異常があり、保護のため運転停止しました。
105、106	パワーコンディショナ 系統過電流異常 ●系統過電流が発生し、保護のため運転停止しました。 系統 L1(U)-N(O) 間、L2(W)-N(O) 間電圧の確認と共に、配線を確認してください。
107	パワーコンディショナ 機器保護異常 ●機器内部で問題があり、保護のため運転停止しました。 電力線の配線を確認してください。
108	パワーコンディショナ 交流電流センサ異常 ●交流電流センサで異常があり、保護のため運転停止しました。 接地電圧確認と共に、系統側の配線を確認してください。
109	パワーコンディショナ 直流成分検出異常 ●交流側で直流成分検出の異常があり、保護のため運転停止しました。 接地電圧確認と共に、系統側の配線を確認してください。
110	パワーコンディショナ 直流地絡 ●地絡を検知したため、運転を停止しました。 太陽電池用開閉器と連系ブレーカを OFF (切) にし、配線を確認してください。
111～113	パワーコンディショナ 内部異常 ●機器内部で問題があり、保護のため運転停止しました。 電力線の配線を確認してください。
116、117	パワーコンディショナ 温度異常 ●温度異常があり、保護のため運転停止しました。 保護ガードにごみなどがたまっていないことを確認してください。
120、121	パワーコンディショナ 内部異常 ●本体で問題があり、保護のために運転を停止しました。

点検コード	内容と対処方法
122	パワーコンディショナ ファン異常 ● 機器内部のファンに問題があり、保護のために運転を停止しました。 機器内部のファンに異物が挟まっていないか、確認してください。
124、125	パワーコンディショナ 系統側配線誤接続 ● 交流側端子台接続が間違っている可能性があります。 交流側配線を正しく配線し直して、L1(U)-N(O) 間、L2(W)-N(O) 間 100 V を確認してください。
126、347	パワーコンディショナ 低温異常 ● 低温異常があり、保護のため運転停止しました。 使用環境温度以下でないことを確認してください。
129、130	パワーコンディショナ 出力過電流異常 ● 出力電流に問題があり、保護のために運転を停止しました。 系統の配線を確認してください。
301～319、335～344	パワーコンディショナ 太陽光入力異常 ● 太陽光入力側で問題があり、保護のため一時的に運転を停止しました。 太陽電池用開閉器のすべての配線の電圧や極性（+、-）が正しいか、確認してください。 太陽電池モジュールの配線に問題がないことを確認してください。
801、802	外部機器間通信異常 ● システムで異常があり、保護のため一時的に運転を停止しました。 通信配線やアドレス重複を確認してください。
803	内部機器間通信異常 ● 機器内部で異常があり、保護のため一時的に運転を停止しました。
810	パワーコンディショナ システム異常 ● システムで異常があり、保護のため運転を停止しました。
811	外部停止信号 ● 外部機器の停止信号により停止しました。
815	電力計測通信異常（内部） ● 機器内部で異常があり、保護のため一時的に運転を停止しました。
816	電力計測通信異常（外部） ● 電力計測に関する通信で異常が発生しました。パワーコンディショナや外部機器の設定と通信配線が正しいか、確認をしてください。
899	系統異常手動復帰待ち ● 停電または商用電源（系統）の乱れにより運転を停止しました。保護リレー时限の設定が手動になっているため、自動復帰しません。 再起動したあと、所定の時間が経過すると、運転を再開します。

■パワーコンディショナの再起動方法

パワーコンディショナの運転／停止ボタンの長押しによる停止、運転の切り換えをすることで再起動可能です。
一括制御リモコンを設置している場合は、一括制御リモコンの運転／停止スイッチを切り換えることでも再起動可能です。

■Eの点検コード（商用電源側）の内容と対処のしかた

故障ではありません。商業電源側が正常に戻り次第復帰することができます。
必要に応じて、下記に記載の対処を実施してください。

点検コード	内容と対処方法
001～014	系統異常 ● 連系ブレーカ、および端子台の接続状況、商用電源の電圧、周波数を確認してください。

10-4. 点検表示について（つづき）

- 自立運転時の点検コード（自立運転による確認で発生する可能性があります）の内容と対処のしかた
 - P：自立運転コンセントへの接続機器を減らしてください。正常に戻れば10秒程度で自動的に運転を再開します。
 - U：問題が発生し、保護のために一時的に運転を停止しました。接続機器を減らすか、必要により機器を一度すべて外して運転／停止ボタンを操作（停止→運転）にしてください。
 - H：問題が発生し、運転を停止しました。修理相談窓口にご相談ください。

点検コード	内容
150～164	パワーコンディショナ 自立運転異常 ●自立運転時に問題があり、保護のため運転を停止しました。

パワーコンディショナの表示操作部の点検ランプ表示

点検表示についてはパワーコンディショナの表示操作部の点検ランプで状況を確認することができます。点検ランプの点灯／点滅パターンにより各点検コード種別を表します。

点検ランプ（赤色）



点灯

点検コード種別 H、F の発生を示しています。

運転を停止し、連系ブレーカを OFF（切）にしてから修理相談窓口にご連絡ください。



点滅（約2秒点灯と短く消灯を繰り返す）

点検コード種別 U の発生を示しています。

点検コード表の対処方法を実施後、再起動することで復帰します。



点滅（約1秒ごとに点灯と消灯を繰り返す）

点検コード種別 E の発生または商用電源の安定待ちを示しています。

商用電源（系統）側での問題であり、故障ではありません。正常に戻り次第、自動で復帰します。頻繁に発生する場合は、商用電源（系統）側での対策が必要ですので、管轄の電力会社へご連絡ください。



点滅（短く点灯と約2秒消灯を繰り返す）

点検コード種別 P の発生を示しています。

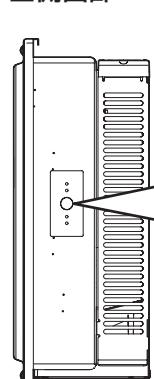
正常に戻り次第、自動で復帰します。



消灯

正常に運転しています。

■側面部



一括制御リモコン（JH-RPL3）での点検コード表示

- パワーコンディショナ、電力計測制御ユニット、一括制御リモコンの点検コード表示が可能です。
- 複数のパワーコンディショナ、電力計測制御ユニット、一括制御リモコンで正常でない状態が発生した場合、一括制御リモコンでそれぞれの点検コードを2秒毎に切り替えて表示します。

各パワーコンディショナの

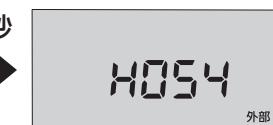
点検コード
※アドレス表示あり



2秒



2秒



2秒



2秒

電力計測制御ユニットの

点検コード
※外部表示あり

一括制御リモコンの

点検コード

MEMO

シャープ株式会社

(本社)〒590-8522 大阪府堺市堺区匠町 1 番地 (2025 年 12 月現在)